



會期 昭和十八年二月十日より二月廿八日まで
會場 東京府美術館

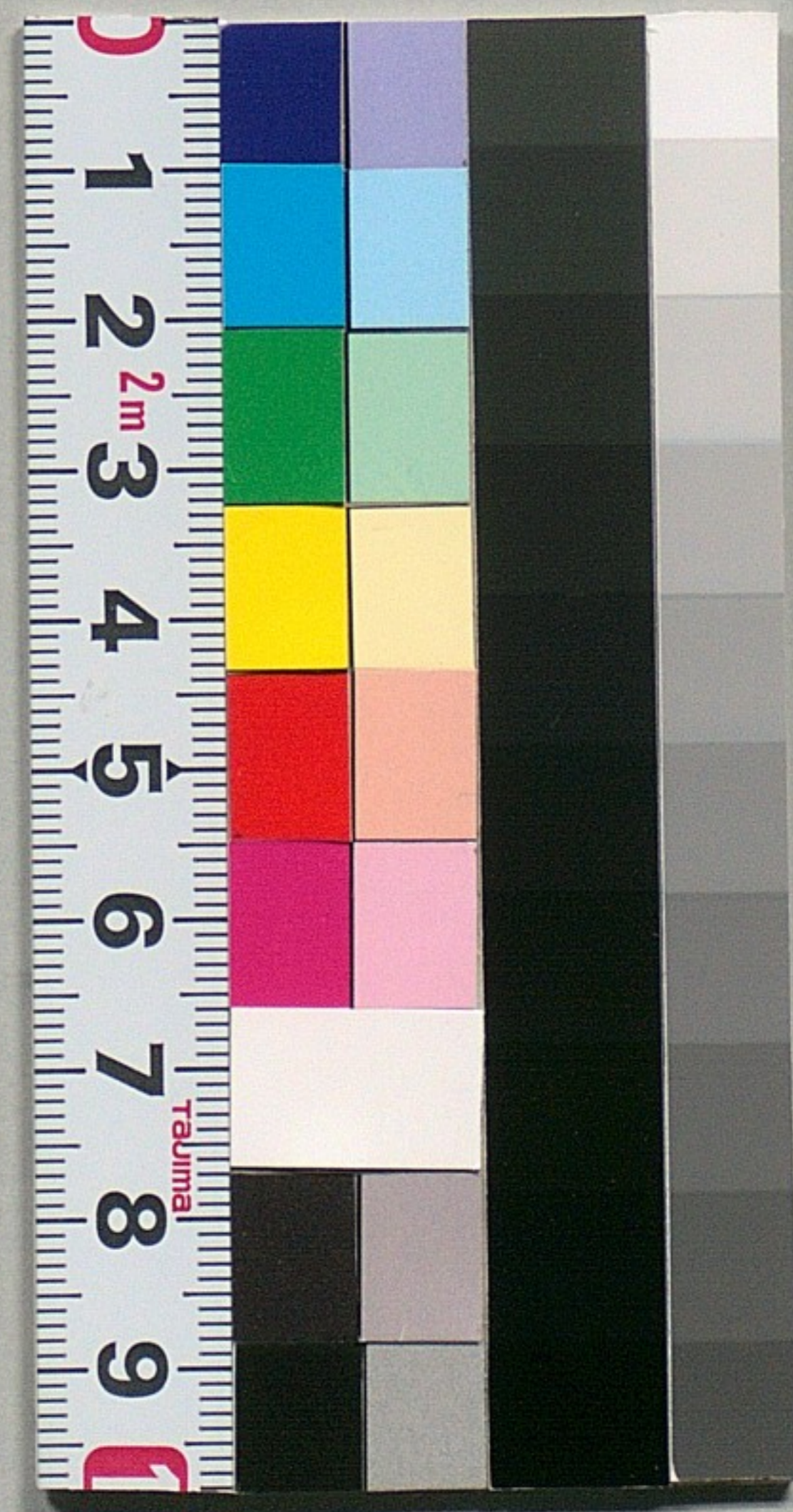
皇太子殿下御誕辰記念
日本近代美術館建設

明治美術名作大展示會目錄

(說解)

主催 東京市・朝日新聞社
後援 情報局・文部省・東京府
東京商工會議所・大政翼賛會

19



凡例

- 一、本目録は皇太子繼宮明仁親王殿下御誕辰を記念し奉り、さきに東京市では日本近代美術館を建設することに決したが、それが準備としての明治聖代の日本畫、油彩畫、彫刻、美術工藝品中の名作を網羅した明治美術名作大展示會の總目録である。
- 一、陳列品は選定委員會の銓衡に基き決定したものである。
- 一、記載順序は五十音順により、帝室博物館鑑査官野間清六、美術研究所員隈元謙次郎兩氏の絶大なる援助により出陳作者の略歴をも添へ作製せるものである。なほ本目録記載中多少は都合に依り陳列せざるものあり、御諒承を乞ふ。

昭和十八年二月七日

東京市
朝日新聞社

近・現代美術展 43 - 02

明治美術名作大展示會目録__皇太子殿下御誕辰記念日本近代美術館建設

1943年 02.10 ~ 02.28

東京府美術館

目次

一、御物 二

一、宮家御貸下品 三

一、日本畫 四

一、油彩畫 二六

一、彫刻 四九

一、美術工藝 五四

御物

1	秋山幽趣圖	幅	山岡米華
2	墨畫龍圖	幅	下條桂谷
3	群猿圖	幅	川端玉章
4	孔雀圖	大橫幅	荒木寬畝
5	新田義興血戰圖	幅	川邊御楯
6	唐家屯月下步哨之圖	額	山本芳翠
7	海邊漁夫網子修補之圖	額	三輪大次郎
8	和氣清麿奏神教之圖	額	佐久間文吾
9	岩倉具視之像圖	額	高橋由一
10	薩摩湯額	額	床次正精
11	羅馬古城趾之圖	額	百武兼行
12	伊太利兵士之圖	額	松岡壽行
13	軍人遺族之圖	額	松井昇

高松宮家御所藏

14	林大尉戰死之圖	額	一面	滿谷國四郎
15	金屬製蘭陵王置物	物	一個	海野勝珉
16	銀製千羽鶴彫花瓶	瓶	一對	加納夏雄
17	銀製丹鳳朝陽圖彫花瓶	瓶	一對	海野勝珉
18	牙彫官女置物	物	一個	旭玉山

19 東山全景圖 (六曲一双) 景

岸竹堂 原田直次郎

久邇宮家御所藏

21 瀛洲僊境 群僊祝壽 双幅

富岡鐵齋

北白川宮家御所藏

22 秋園錦繡圖

野口小蘋

日本畫

(五十首順に各項括弧内は制作の年を示す)

1 故 荒木寛 畝

御物 孔雀 圖 (明治二十三年第三回内閣博)

2 日光三瀑布圖

公爵三條公輝氏藏

天保二年江戸に生る。本姓は田中、文晁派の荒木寛快に學び、摺んでられてその後を継いだ。明治卅三年帝室技藝員となり、また東京美術學校教授、文展は本畫部の審査員であつた。最も花鳥を得意とし幾多の大作をのこしてゐる。大正四年歿、年八十五。

3 荒木十畝 雨 後 (柳鷺圖) (明治四十二年文展)

東京作 香 藏

明治五年長崎縣に生る。同二十四年上京し荒木寛畝に學びその養子となる。東京女子師範學校教授。元帝國美術院會員。現帝國藝術院會員である。

4 故 天草神來 羽衣

東京美術學校藏

明治初年熊本に生る。明治二十八年東京美術學校を卒業

5 故 池田輝方 山王祭圖

東京平尾實平氏藏

明治十六年東京に生る。水野年方、川合玉堂に學び、文展に出品して屢々優賞を受く。大正八年帝展推薦となつたが同十年歿した。享年三九

6 故 池田蕉園 夢 (明治四十一年第一回下萌會)

東京鈴木年夫氏藏

名は百合子。旧姓柳原。明治二十二年京都に生る。水野年方に師事し、美人畫家として名あり。大正六年歿、年三十。

7 池上秀畝 初 冬 (明治四十三年第四回文展三等賞)

文 部 省 藏

明治七年長野縣に生る。夙に荒木寛畝の門に入り、南北各派を學ぶ。旧帝展審査員、元帝國美術院指定。

8 故 今尾景年 竹雀圖屏風 (六曲一双)

帝室博物館藏

弘化二年京都に生る。鈴木百年に學び花鳥畫に堪能なり。明治三十七年帝室技藝員。四十年以來文展審査員。大正八年帝國美術院會員。同十三年歿、年八十。

9 故 今村紫紅 伊達政宗 (明治四十三年紅夷會展)

横浜原良三郎氏藏

10 同 護花 鈴 (明治四十四年文展優賞)

横浜原良三郎氏藏

神奈川縣の人、明治十三年生。畫を松本楓湖に學び、文展に出品してゐたが後再興日本美術院の同人となる。大正五年歿、享年三十七。

11 故 石井鼎湖 房州三偉人圖

東京石井柏亭氏藏

本名車賢、嘉永元年江戸に生る。鈴木鷺湖の次男として幼にして繪を父に學ぶ。三浦乾也の養子となりしも轉じてその後石井氏を継ぐ、紙幣發(印刷局)に職を奉じ、紙幣の圖版、石版術を傳習、明治二十一年柳池會審査員、同二十三年第三回内閣博に「豊公醜圖」を出品三等妙技賞、その後洋風術の團體明治美術會創立に参加、明治三十年歿す。

12 磯田長秋 賴朝七騎落圖

東京寺島禎一氏藏

明治十三年東京に生る。小堀鞆音の門下にして歴史畫を得意とする。

13 上村松園 長夜 (明治四十年文展三等賞)

侯爵細川護立氏藏

14 同 月かげ(明治四十一年文展三等賞)

明治八年京都に生まる。蘭秀畫家にして鈴木松年、幸野楳嶺、竹内栖鳳に師事、美人畫を得意とする。現帝國藝術院會員たり。 侯爵細川護立氏藏

15 故奥原晴湖 水墨山水圖 帝室博物館藏

天保八年下総古河に生る。蘭秀畫家にして初め福田半香に南宗畫を學び後に支那古畫を研究す。明治初年安田老山と東都に覇を稱す。大正二年歿、年七十七

16 故尾形月耕 江戸山王祭圖 帝室博物館藏

安政六年江戸に生る。菊地容齋の畫法により一派をなし浮世繪派最後の大家であつた。大正九年歿、享年六十三。山村耕花は其の門下である

17 尾竹國觀 油 斷(六曲一双)(明治四十二年第三回文展二等賞) 文部省藏

明治十三年新潟縣に生る。高橋大華、小堀柄首に師事し歴史風俗畫を得意として若年より畫名著はる。旧帝展無鑑査。

118 故尾竹竹坡 棟木圖(六曲一双)(明治四十三年文展) 男爵住友左衛門氏藏

明治十一年新潟市に生る。越堂の弟、國觀の兄、小堀柄首、川端玉章、梶田半古に學び、文展に數回二等賞を得、昭和十一年歿、享年五十九

19 故大庭學仙 文昌星圖(明治二十五年) 帝室博物館藏

文政三年周防に生る。小田海陽、朝倉南陵に學び、後南北兩派を合した一家の風を出した。明治二十年七十歳にて歿す。

20 故狩野芳崖 櫻下勇駒圖(明治十五年) 秋田奈良磐松氏藏

21 同 大鷲(明治二十一年) 東京美術學校藏

22 同 悲母觀音(明治二十一年) 東京美術學校藏

文政十二年長門豊浦に生る。畫を父董信及び狩野雅信に學び、狩野派の正格を究むと共によく古畫を研鑽し、その畫技はフェノロサの認むるところとなり、共に東京美術學校の創立に盡力したが、明治二十一年開校に先だつて歿す。享年六十一。併しながら橋本雅邦と共に明治畫壇の隆昌の基礎を興へた功績には没すべからざるものがある。悲母觀音は彼の絶筆にして又彼が畢生の傑作である。

23 故狩野友信 平治合戦圖 帝室博物館藏

天保十四年に生る。初め狩野勝川雅信に學び後洋畫を英人ワグマンに就き、東京美術學校開設に際し一時教授となる。享年七十。

24 故河鍋曉齋 花鳥圖(明治十四年第二回内國博) 帝室博物館藏

天保二年下総古河に生れ、初めの号は狂齋、のち曉齋と改む。國芳ら數家の風を折衷して一家となり。明治二十二年歿、年六十二。

25 故川邊御楯

御物 新田義興血戰圖幅(明治二十五年)

天保八年筑後に生る。畫業を父及び三善眞尋等に學ぶ。有戦故実に通じ歴史畫を多く遺してゐる。明治三十八年歿、年六十九。

26 故川村雨谷 凍雲欲雪圖(明治二十五年) 川村武平氏藏

天保九年に生る。畫は長崎奉行支配定役在勤中木下逸雲、僧鉄翁について學んだ。後大審院判事となつたが、又よく畫風雅の道を娛しんでゐた。明治三十九年歿、享年六十九。

27 故川上冬崖 果實圖 帝室博物館藏

文政十年信濃に生る。南宗畫を能くし兼ねて洋畫をも修め、開成所畫學校では教授となりて西洋畫を教へ又その家塾蘭香讀畫館には多くの門

弟が事つたので、彼は近世洋書発達の先達たるの観があつた。明治十四年歿、享年五十三。異圖は皇居御造營の下圖として提出したものである。

28 故川 崎千虎 佐々木高綱披甲之圖 東京川崎小虎氏藏

天保六年尾張に生る。畫は沼田月齋、土佐光文に學び、又社寺を歴訪して有職故実の造詣が深かつた。帝室博物館、東京美術學校、受知縣立工業學校等に職を奉じ、明治三十五年歿した。享年六十八。

29 故川 端玉章

御物 群猿圖幅

30 黒堤春曉圖 東京美術學校藏

天保十三年京都に生る。中島來章に就き畫を學び、山水花鳥をよす。明治二十三年東京美術學校教授となりのち帝室技藝員となる。門下に名を成せるもの多く結城素明、平福百穂等がある。大正二年歿、享年七十二。

31 川合玉堂 童兒家鴨を追ふ圖(明治三十年) 帝室博物館藏

32 同 秋山遊鹿圖(明治四十一年文展) 東京服部文三氏藏

33 同 波に千鳥圖(明治四十一年下朝會) 東京和田文吾氏藏

明治六年愛知縣に生る。はじめ京都の望月玉泉、幸野樸嶺等に就き、のち東京に出て、橋本雅邦に師事した。元東京美術學校教授、元帝國美術院會員、現に帝國藝術院會員、又帝室技藝員である。横山大觀と共に現代日本畫壇の長老であつて文化勳章を授けられてゐる。

34 故川 北霞峯 保津川晚春圖(明治四〇年) 京都田畑喜八氏藏

明治八年京都に生る。初め畫を幸野樸嶺に學び、樸嶺の歿後菊池芳文に師事した。文展第一回より第三回まで續いて三等賞を受けた

35 鏑木清方 一葉女史の墓圖(明治三十五年) 東京作 者 藏

明治十一年東京神田に生る。柴田眞哉の門に入り、のち水野年方の門に移つた。風俗畫を得意とし、明治三十二年日本美術院へ出品したのが最初で、以後各種の展覽會へ出品し受賞してゐることが多く、大正十五年結城素明、吉川靈華、平福百穂、松岡映丘等と金鈴社を創立、一時美術界に先驅した。元帝國美術院會員、現に帝國藝術院會員である。

36 故 梶 田半古 春宵怨圖(明治三十五年) 横浜村田徳治氏藏

明治三年東京に生る。金工家政晴の男。畫は鏑田半古、鈴木華邨に學び、歴史畫風俗畫に長じ、一時新聞挿繪に名聲を博した。大正六年歿、享年四十八。門下に小林古徑、前田青邨等がある。

37 故 岸 竹堂 東山全景圖(六曲二双) 高松宮家御所藏

38 同 月下描兒圖(明治三十一年日本美術協會) 京都西村總左衛門氏藏

39 同 枯木に鳥圖(明治三〇年) 京都飯田新七氏藏

文政九年彦根に生る。本姓寺居氏。岸連山はじめ狩野派を學び、のち連山に就きその養子となつて岸姓を置。山水は長するところ。帝室技藝員となる。明治三十年歿、享年七十二。

40 故 菊 地容齋 和氣清麿公圖 帝室博物館藏

天明八年江戸に生る。肥後守武時の後なり。はじめ畫を高田田乗に學ぶ。諸派並に西洋畫法を折衷して一家を成し歴史畫を得意とした。又「前賢故実」の著があり、明治天皇より日本畫史の稱を賜ふた。明治十一年歿、享年九十一。

41 故 菊 池芳文 花鳥圖 帝室博物館藏

文久二年大阪に生る。畫を滋野芳園、幸野樸嶺に學ぶ。京都繪畫專門學校教授、文展審査員であつたが、大正七年歿す。享年五十七。菊池契

月はその養子である。出品した花鳥圖は和蘭へーグの平和館を飾る綴織懸掛の下繪として賣いたものである。

42 菊池契月 供燈圖(二曲二双) (明治四十三年文展二等賞)

文部省藏

明治十二年長野縣に生る。京都に出てははじめ内海吉堂に就き、のち菊池芳文に師事、認められて養子となつた。元京都繪畫專門學校長、元帝國美術院會員。現に帝國藝術院會員、帝室技藝員である。

43 故木村武山 阿房宮炎上圖(明治四十年文展三等賞)

北海道村田音二郎氏藏

明治九年茨城縣笠間町に生る。二十九年東京美術學校を卒業したが岡倉天心が日本美術院を興すや、その傘下に参し五浦に籠つて畫道に努め爾來日本美術院の同人として活躍した。昭和十七年歿

44 故久保田米僊 軍隊舍營圖

東京西川義方氏藏

嘉永四年京都に生る。鈴木百年に就て學び、幸野楳嶺等と京都府畫學校設立に盡力したので繪事功勞優狀を賜はつた。又日清戰爭の際は從軍畫家として戰況を畫報して世に著れた。明治三十三年失明、三十九年歿した、享年五十五。

45 故熊谷直彦 大江山之圖

侯爵淺野長武氏藏

文政十一年京都に生る。畫は幼時四條派の岡本茂彦に學ぶ。明治維新に際しては一時畫筆を棄て、國事に奔走したが、間もなく畫道に復帰して、明治三十七年には帝室技藝員に擧げられた。大正二年歿、年八十六。

46 故下條桂谷

御物 墨畫龍圖幅

天保十三年に生る。海軍省祕書官より海軍主計大監に累進し又貴族院議員にもなつたが、畫は上杉藩の繪師目賀田雲川や鍛冶橋狩野に學び又自らも古畫を研鑽して一家の風をなし、殊に明治美術界の指導者として貢献したところに大なるものがあつた。大正九年歿、享年七十九。

47 故小林永濯 備後三郎圖

帝室博物館藏

天保十四年江戸に生る。狩野永惠の門に入り、後明人の筆意を研究し、また寫生を勉め遂に一家の風格をなす。月岡芳年と共に浮世繪派中の双璧の名手と稱せられる。明治二十三年五月歿す。享年四十八。

48 故小堀鞆音 武者圖(明治三〇年繪畫共進會銅碑)

東京美術學校藏

49 同 常世圖(明治三〇年頃)

東京美術學校藏

50 同 大阪冬の役圖(明治二四年)

第一高等學校藏

元治元年下野に生る。川崎千虎を師とし、歴史畫を得意とし、明治四十一年以來東京美術學校教授。帝國美術院會員、帝室技藝員として美術界の元老であつたが、昭和六年歿した。享年六十八。

51 故小坂象堂 野邊圖

東京美術學校藏

明治三年但馬に生る。名は力松初め島村氏を賣し、二十七年以來小坂象堂と稱す。陶畫を作つて苦學、京都を中心に遊歴す。二十八年東京に移住、寺崎廣業等と交はり、のち淺井忠にまなぶ。日本美術協會、日本繪畫協會、明治美術會等の展覽會に出品、獨自な寫生畫風で知られた。三十一年東京美術學校助教授となり、翌年歿。年三十

52 故小坂芝田 山水圖

千葉小坂泰次郎氏藏

53 小室翠雲 四時佳境圖

男爵住友吉左衛門氏藏

南宗畫家、明治五年伊那に生る。洋畫家中村不折とは従兄弟である。兒玉果亭に學び一家をなす。大正六年歿、享年四十六。明治七年群馬縣に生る。田崎草雲に師事して南宗畫をよくし、文展八回以來審査員となる。旧南畫院主宰元帝國美術院會員。現に帝國藝術院會員である。

54 故幸野楳嶺 秋日田舎圖

帝室博物館藏

55 同 柳桃鴨圖

長谷川越天氏藏

弘化元年京都に生る。中島來章、塩川文麟に就いて円山四條の畫を學び。又後進の誘導に力を盡して、門下に竹内栖鳳、菊池芳文、都路華香等を出した。二十六年帝室技藝員となり、二十八年歿した。享年五十三。

56 故巨勢小石 大塔宮圖(明治三年頃)

第一高等學校藏

天保十四年京都に生る。金西三十八世と稱ふ。畫技は幼時家父親に學び、後中西耕石、岸運山等に就く。明治二十一年京都畫學校教授となり同三十三年歿した。享年五十八歳。

57 故兒玉果亭 武陵春色圖

東京池上秀助氏藏

天保十二年信州澁に生る。壯年禪を學び、田能村直入の門に入つて成業の後、帰郷して隠遁三十年におよぶ。南宗畫の大家である。大正二年歿、年七十二。

58 故木島櫻谷 しぐれ圖(明治四〇年文展一等賞)

又 郵 省 藏

明治十年京都に生る。今尾頼年の門に學び、文展初期においては連續して受賞した。日帝展審査員、帝國美術院指正。

59 故榊原文翠 重盛諫言圖(明治二六年シカゴ博)

帝室博物館藏

文政八年江戸に生る。幕臣榊原長基の子、初め谷文晁の門に入つたが後に大和繪を學んだ。明治二十四年京都市美術學校教諭となり、同四十二年歿した。享年八十六歳。

60 故佐竹永湖 三保松原圖

東京野村龍太郎氏藏

天保六年に生る。初め土佐、狩野を學んだ、後文晁の高弟佐竹永海の嗣子となり、南北合流の畫法に通じた。明治四十二年歿、享年七十二。

61 故西郷孤月 春暖圖

東京美術學校藏

明治六年松本に生る。東京美術學校に學び、のち同校助教となる。一時菱田春草、下村観山等と名を等うしその將來を嘱望されたが、大正元年に歿した。年四十。

62 故柴田是眞 雪中鷺圖

帝室博物館藏

文化四年江戸に生る。蒔繪を古満実哉に學び、繪を鈴木南嶺に就き漆藝畫の両道に名をなし、第一回内國勸業博覽會に龍紋賞、第二回内國勸業博覽會に妙技一等賞を得、第一回内國繪畫共進會には審査員となり。又帝室技藝員に擧げられた。明治二十四年歿、享年八十五。

63 故下村觀山 木間の秋圖(明治四〇年文展)

文 部 省 藏

64 同 佛誕圖

東京美術學校藏

65 同 蒙古襲來圖

第一高等學校藏

66 同 涅槃圖

男爵森村市左衛門氏藏

明治六年和歌山縣に生る。橋本雅邦、狩野芳崖に就き、東京美術學校を第二回目に卒業した。のち同校助教に任ぜられたが、岡倉覺三に從つて辭し、日本美術院のために活躍した。のち文展第一回より審査員となつたが、大正三年辭して横山大観とともに又日本美術院を再興した。

大正六年帝室技藝員を命ぜられ、昭和五年に歿した。享年五十八。

67 島田墨仙 大石主税圖(明治三五年内國博銅賞)

大阪井上とみ氏藏

明治三年福井市に生る。初め父島田雪谷に四條派を中頃大平廣正に洋畫を學び、後橋本雅邦に師事した。父、帝展審査員たること数度。

68 故塩川文麟、螢に柳圖

帝室博物館藏

文化五年京都に生る。岡本豊彦に學び四條派の畫風をよくし、安政の禁裡御造營の時には作畫を命ぜられた。明治十年歿。年七十。

69 故鈴木百年 福祿壽圖(明治二年)

京都鈴木務氏藏

文政八年京都に生る。獨修によつて繪をよくし、山水人物に長じた。嘗て京都府畫學校の教師となる。其子に松年、弟子に今尾景年、久保田米隠等がある。明治二十四年東京にて歿、年六十七。

70 故鈴木松年 松林山水圖(明治三年)

京都石田甚四郎氏藏

嘉永二年京都に生る。畫を父鈴木百年に學び、初め百隱と号し人物畫を得意とした。明治十三年京都府畫學校に入り、同十九年教諭となつた。又同二十年には御前揮毫して名譽記念状を受けた。その他受賞多し。大正七年歿、年七十。

71 故杉谷雪樵 墨畫山水

帝室博物館藏

万延元年江戸に生る。初め圓山派の中島享齋に師事したが、後土佐、浮世繪の長所を探つた。大正八年歿。享年八十。

72 故菅原白龍 溪山急雨圖(明治三年)

東京本間久雄氏藏

天保四年羽前に生る。畫業を熊坂適山に受け、上京して「繪畫叢誌」に關係し、日本的南畫を作ること理想としてゐたので、遂に唐人物は描かなかつた。明治三十一年歿、享年六十六。

73 故瀧和亭 孔雀圖

帝室博物館藏

天保元年江戸に生る。はじめ大岡豊彦に學び、長崎に遊びて鉄翁に従ひ又清客と交つて、南宗畫の大家となつた。花鳥は最も長ずるところ。明治二十六年帝室技藝員となる。三十四年歿、享年七十二。

74 故高橋廣湖 重盛諫言圖

横浜清野暢一郎氏藏

明治八年熊本に生る。はじめ雪舟派の畫を學び、上京して松本楓湖の門に入り、廣湖といふ。四十年第二回文展に未成品を出品して通らず、落選展覽會を開いたのは有名なことである。明治四十五年歿、享年三十八。

75 故田崎草雲 秋山幽隱圖

日本美術協會藏

文化十二年江戸に生る。旧足利藩士で南北諸家の畫を學んでゐたが維新の際には勤王の士として活躍した。明治二十三年帝室技藝員にあげられ。明治三十一年八十四の高齡をもつて歿した。

76 故田能村直入 青綠山水圖

日本美術協會藏

文化十一年豊後に生る。畫を養父竹田に學び、また詩をよくした。京都府畫學校建設に盡力し、關西南宗畫界の牛耳をとり。明治四十年九十

77 故竹内栖鳳 廢園春色

旧爵牧野伸顯氏藏

78 同 雨 霽(六曲一双)(明治四十年文展)

文部省藏

カ 同

飼はれたる猿と兎(二曲二双)(明治四十一年文展)

文 部 省 蔵

元治元年京都に生れ、幸野樸館の門に入り、三十三年渡欧、歸來前の樸館を栖鳳と改め、又展最初より審査員となる。その洗練された畫技はよく関西畫壇を代表し、つひにその総帥たるを得た。元帝國美術院會員、佛國サロン會員、帝室技藝員、帝國美術院會員であつた。第一回文化勳章を授けらる。昭和十七年歿享年七十九。

30 故 谷 口 靄 山 山莊瑞雪圖(明治二十一年頃)

京 都 森 本 東 閣 氏 蔵

文化十三年越中富山に生る。十八歳の時江戸に出て谷文晁高久齋等々に就き、後長崎に至り陳逸舟に學び、更に京都にて眞名海屋に師事した。明治三十二年八十四歳を以て歿す。

81 故 谷 口 香 嶠 羅浮仙人圖(明治四十四年文展)

京 都 椿 詞 茂 氏 蔵

元治元年和泉口浪野村に生る。竹内栖鳳、菊池芳文等と共に幸野樸館に就き、京都繪畫專門學校教授となる。大正四年歿、享年五十二。

82 故 都 路 華 香 松の月圖(明治四十四年文展三等賞)

京 都 飯 田 新 七 氏 蔵

明治三年京都に生る。幸野樸館の門に學び、後京都繪畫專門學校、美術工藝學校長、帝展審査員、帝國美術院會員となつた。昭和六年歿、享年六十二。

83 故 土 田 麥 僊 罰 圖(明治四二年文展)

崎 玉 小 谷 野 浩 一 氏 蔵

84 同 髮 圖(明治四四年文展優賞)

京 都 繪 畫 專 門 學 校 蔵

明治二十年佐渡に生る。鈴木松年の門に入つたが、のち竹内栖鳳の門に移つた。最初文展に出品したが、大正七年同志と圖畫創作協會を起し氣を吐いた、のち又帝展に復帰した。旧帝展審査員、帝國美術院會員。昭和十一年歿、享年五十。

85 故 寺 崎 廣 業 大佛開眼圖(明治四十年文展)

某 氏 蔵

86 同

溪 四 題(明治四二年文展)

文 部 省 蔵

慶應二年秋田の家考の家に生る。はじめ狩野派を學び、のち東京美術學校教授に任じ、又展第一回以來日本畫部審査員であつた。大正六年帝室技藝員に擧げられ。同八年歿、年五十四。

87 故 富 岡 鐵 齋 瀛洲倦境 洋障祝壽圖(明治三二年)

久 遠 宮 家 御 所 蔵

88 同

摩訶羅神祭圖(明治三三年)

東 京 正 宗 傳 三 郎 氏 蔵

天保七年京都に生る。はじめ歐漢の學を修め、曾て神官であつたが、安政、万延以來その長い生涯を通じて彩管をとり年と共に畫風は高逸となり遂に巨然たる文人畫の大家となつた。帝室技藝員、帝國美術院會員。大正十三年歿、享年八十九。

89 故 富 岡 永 洗 井筒女之助(明治三二年日本畫會)

東 京 大 橋 一 輝 氏 蔵

90 故 富 田 溪 仙 伎 藝 天(明治三九年京都新古美術展)

京 都 清 水 寺 蔵

明治十二年福岡市に生る。十九年京都に出て、翌年都路華香の門に入り四條派を學んだが後仙厓禪師の作品に傾倒し、奈良、平安朝の佛畫を研究し、また富岡鉄齋の畫風を追うた。最初文展に出品したが、後院展に轉じ、大正十四年日本美術院同人となり。昭和十年には帝國美術院會員に擧げられた。同十一年歿、年五十八。

91 故 長 井 雲 坪 秋夏山水圖(明治一七年)

帝 室 博 物 館 蔵

天保四年長野縣に生れ文人畫、山水畫をよくし明治三十二年歿す。

92 故 西 村 五 雲 白 熊(明治四〇年文展三等賞)

東 京 増 田 毅 一 氏 蔵

明治十年京都に生る。初め岸竹堂に學んだが後竹内栖鳳に師事し、よくその師風を継いだ。元京都繪畫專門學校長、元帝國美術院會員。帝國

藝術院會員であつたが昭和十年歿、享年六十二。

93 故野 口 幽 谷 柳に蓮圖(明治二年)

東京林 鍾氏藏

太政十年生。椿椿山の逸足。最も花鳥を得意とし、種厚品致あり。畫風を特色とした。明治二十六年帝室技藝員となる。同三十一年歿、享年七十二

94 故野 口 小 嶺 溪山清趣圖

帝室博物館藏

95 同 秋園錦繡圖

北白川宮家御所藏

弘化四年大阪に生る。河波の人。京都に出て、白根対山に學ぶ。女流西畫家の第一人者で明治三十七年には選ばれて帝室技藝員となつた。大正六年歿、享年七十一。

96 故野 村 文 學 月下溪流圖(明治四〇年文展三等賞)

子爵杉七郎氏藏

安政元年京都に生れ、梅川東嶽、塩川文麟森實齋に學ぶ。明治二十二年東京に移る。學習院教授、文展第二回より四回まで審査員であつた。明治四十四年歿、享年五十八。

97 野 田 九 浦 辻 説 法(明治四〇年文展二等賞)

文 部 省 藏

明治十三年東京下谷に生る。寺崎廣業に學び、のち大阪朝日新聞社に入り、大正六年秋東京に帰へる。

98 故橋 本 雅 邦 白雲紅樹圖(明治三年第三回博)

東京美術學校藏

99 同 壽老人圖(明治三年頃)

東京大島文毅氏藏

100 同 龍 虎 圖(六曲一双)(明治二八年第四回博)

男爵岩崎小彌太氏藏

101 同

竹林雀猫圖

帝室博物館藏

天保七年江戸木場町に生る。畫を父養邦及び狩野雅信に學び、のち父の業をつぐ。明治二十年文部省圖書取調委員となり、東京美術學校開校と共に教授となる。同二十三年帝室技藝員となり、同三十一年岡倉覺三と日本美術院を創立し現代日本畫勃興の基礎を與へた。芳崖と共に明治畫壇の双壁といふべきである。明治四十一年歿、年七十四。

102 故原 在 泉 足柄山新羅三郎吹笛圖(明治三〇年京都博)

京都原在寛氏藏

安政六年京都に生る。畫を父在照に學んで一家を成した。明治十三年京都府畫學校に出仕し、十五年内國繪畫共進會に出品、以來しばしば受賞。大正十五年歿、享年六十八

103 故春 木 南 溟 山水圖

公爵鷹司信輔氏藏

寛政七年に生る。父南湖の畫法を嗣いで山水花鳥を能くす。明治十一年歿、享年八十四。

104 故平 福 穂 庵 軍 鶏(明治一九年)

秋田奈良磐松氏藏

弘化元年羽後に生る。染技の傍ら繪事を好み武村文海に師事したが筆力敏捷にして自ら一格を示すを得た。明治二十三年歿、享年四十七。自筆はその子である

105 故平 福 百 穂 ア イ ス(明治四二年文展)

文 部 省 藏

明治十年秋田縣に生る。東京に出て、川端玉章の門に入り、次で東京美術學校に學ぶ。文展、帝展には異色ある作を出品して注目された。帝國美術院會員。昭和八年歿、享年五十七。

106 故本 多 天 城 蘇 武 圖

帝室博物館藏

107 故帆 足 杏 雨 風雨山水圖

帝室博物館藏

103 故平野五岳 山水圖

文化八年豊後日田に生る。初め廣瀬淡窓に學んだが、畫は中年に至つて志したもので田能村竹田の風を慕つて一家をなした。明治二十六年歿享年八十三。

帝室博物館藏

109 故菱田春草 寡婦と孤兒 (明治二八年日本繪畫協會銀牌)

東京美術學校藏

110 同 水鏡 (明治三〇年同)

東京美術學校藏

111 同 賢首菩薩 (明治四〇年文展二等賞)

侯爵細川護立氏藏

112 同 落葉 (六曲二双) (明治四二年文展二等賞)

侯爵細川護立氏藏

明治七年信州飯田に生る。はじめ結城正明に學ぶ。後東京美術學校に學び、卒業後は助教となつたが、岡倉天心に殉じて去り、日本美術院に参加した。その天才的な畫技は一作毎に世に注目惹き復興途上の日本畫壇に生新澆刺の氣を齎らすに與つて力があつた。四十四年歿、享年三十八。

113 故 姫島竹外 自畫施色百老圖 (明治三十五年)

大阪 小野平一郎藏

天保十一年筑前に生る。はじめ梅圃と号す。夙に村田東圃に學ぶ、石丸春牛に師事、難波畫壇の白眉として関西宗畫の大家と知らる。昭和三年歿す。享年八十九。

114 故松本楓湖 足柄山圖

東京原 嘉道氏藏

天保十一年常陸に生る。沖一峨の門に入りのち佐竹永海、菊地容齋に學ぶ。文展には一回から四回まで審査員をなし、大正八年帝國美術院會員に推さる。今村紫紅、高橋廣湖、小茂田青樹、速水御舟はその門下である。大正十二年歿、享年八十四。

115 故松岡映丘 浦島の子 (明治三七年卒業製作)

東京美術學校藏

明治十四年播磨に生る。橋本雅邦、山名貫義の門に遊び、のち東京美術學校に學ぶ。同四十年同校助教となる。大正八年帝展審査員に擧げ

られ「平治の重盛」によつて昭和四年帝國美術院賞を受く。帝國美術院會員、國畫院盟主であつたが昭和十三年歿、享年五十八

116 町田曲江 佛陀の光 (明治四〇年東京博一等賞)

長野町田清治氏藏

明治十二年長野縣に生る。内海吉堂に就いたが、のち寺崎廣業に師事す。外遊二回、旧帝展審査員たること三回、同無鑑査。

117 故松岡環翠 蓮圖

帝室博物館藏

名は光訓、蓮痴あるひは松石と号す。津山の藩士光享の子。のち東京に住して五十嵐竹沙に學ぶ。不忍池の蓮を三年映かさず寫生したと云はれ、墨の名手として知らる。本圖もその一である。明治二十年歿、年五十八。

118 故益頭俊南 牡丹に孔雀 (明治四二年)

東京益頭尚孝氏藏

嘉永四年江戸に生る。初め陸軍兵學寮の教官であつたが、明治八年野口幽谷の門に學び遂に畫を以て立つ。大正五年歿。年七十六。

119 故水野年方 御殿女中 (絶筆)

東京鑄木清方氏藏

慶應二年江戸神田に生る。初め大蘇芳年に錦繪を學び、傍ら山田柳塘に陶器畫を受け、冬南畫家柴田芳州にも就き、三鳥蔗窓、渡辺省亭等の影響を受け、明治中期には新聞挿畫を擔當して一生面を開いた。明治四十一年歿、年四十二。

120 故三宅吳曉 渡海觀音圖 (明治三五年)

京都三宅鳳白氏藏

名は清之助、慶應元年京都に生る。森川曾文に學び、後京都市美術學校教諭となる。文展にも出品、大正八年歿、享年五十六。

121 故村田丹陵 小早川隆景破明軍圖 (明治二七年日本美術協會三等賞)

男爵小早川四郎氏藏

明治五年東京に生る。田田安藩士の男、川辺御楯について土佐派を學んで、歴史畫に長じ、第一回文展には三等賞を得た。

122 故村瀬玉田 雉子圖

帝室博物館藏

名は德雲、彩雲亭の号あり、嘉永五年京都に生る。父は榎傳兵衛。四條派の村瀬双石に學びその養子となる。のち東京に移住し、諸種の共進

會等に受賞、早くより日本美術協會の審査員であつた。大正六年歿、年六十六。

123 故村 上華 岳 二月の頃(明治四四年第五回文展裏狀)

京都繪畫專門學校藏

本名壽一、明治二十一年大阪に生る。京都市美術工藝學校を経て、四十四年京都繪畫專門學校を卒業、大正七年土田麥隱等と國畫創作協會を創立した。昭和十四年歿、年五十二。

124 故森 寛 齋 松間瀑布(明治三三年)

京都 飯田 新七 氏藏

名は公賴、字は子容、文化十一年に生る。父は長州藩土田傳内。幼くして萩、瀧福寺の太田田龍につき、弱冠大阪に出て森徹山に入門、つひにその跡を継ぐ。のち京都に移り、維新に際しては國事に奔走した。京都府畫學校にも奉仕し、明治二十三年には帝室技藝員を拜命。同二十七年歿、年八十一。野村文舉、山元春舉はその門下である。

125 故森 川 會 文 群鹿圖(明治二六年)

帝室 博物館藏

名は英詢、字は子傳、弘化四年京都に生れ、前川五嶺、長谷川玉略に學ぶ。二十四年京都市美術學校の教諭となり、二十八年の内國勸業博覽會には審査官に推された。諸種の博覽會、共進會等に出品して屢々受賞、明治三十五年歿、年五十六。本圖はシカゴ万国博覽會に出したもので代表作である。

126 故望 月 玉 泉 阿波鳴門(明治四〇年)

京都 望月 玉成 氏藏

名は重岑、玉溪とも号した。望月王禰の曾孫、天保五年京都に生る。繪を父玉川にまなび、文を巖垣六藤にうく。山水花鳥を得意とした。京都府畫學校建設に盡力し、明治十五年繪事功勞賞を受けたことがある。そのほか諸種の展覽會に屢々受賞、明治三十七年には帝室技藝員を拜命した。大正二年歿、年八十。

127 故望 月 金 鳳 月下白狼圖

東京 塚本 猶藏 氏藏

寛永二年大阪に生る、本姓平野名は學、はじめ森二鳳につき円山派の繪を學び、後西山完瑛に師事して四條派を妙を極む。明治四十三年文展

審査員、大正四年歿、享年七十。

128 故守 住 貫 魚 源氏物語圖(双幅)(明治二〇年頃)

兵庫 村山 長舉 氏藏

文化六年阿波徳島に生る、字は士洛、通稱徳次郎。はじめ渡辺廣輝にまなび、のち江戸に出て住吉弘寛の門に入る。帰國後は繪をもつて整須賀家に仕へ、天保九年には藩の繪師となつた。明治十七年第二回繪畫共進會には一人金賞を得て大いに知られた。二十三年帝室技藝員拜命、同二十五年大阪にて歿、年八十四。

129 故山 岡 米 華

御物 秋山幽趣圖幅(明治四二年)

原應三年土佐に生る、名は尙樹。繪を名草逸峯、川村雨谷等に學び、書を公文修助について修む。書を以て内閣賞勳局に奉仕し、のち畫名高く、日本兩宗畫會をおこし、第二回より文展審査員に列した。大正三年甲府にて歿、年四十八。

130 故山 名 貫 義 養老の瀧(明治二〇年頃)

東京 美術學校藏

和歌山藩の繪師の息として天保七年江戸に生る。住吉派の弘寛の門に學び、明治十五年第一回共進會に審査員となる。同二十一年宝物取調局の委員となり全國宝物取調に従事、二十七年より東京美術學校に教へた。二十九年帝室技藝員を拜命、三十年には古社寺保存會の委員たり、明治三十五年歿、年六十七。

131 山 元 春 舉 拾髒拾髓(明治三四年)

帝室 博物館藏

132 同 雲 松 圖(六曲二双)(明治四一年文展)

文 部 省 藏

幼名寛之助、のち同姓金衙門の後嗣となる。明治四年大津に生れ、はじめ野村文舉につき、その後森寛齋にまなぶ。三十二年京都市美術學校教諭、四十二年には京都繪畫專門學校の教授となつた。文展一回よりの審査員で、大正六年帝室技藝員、同八年には帝國美術院會員に推された。昭和八年歿、年六十三。その早苗から川村昂舟、小村大雲、察本一洋、勝田哲等が出てゐる、拾髒拾髓圖は第七回新古今美術品展に出て

當時栖鳳の「獅子」と相対した力作にして後者は審査委員としての作品である。

133 故山 内多門 日光山の四季(四幅) (明治四四年)

文部省蔵

明治十一年宮崎縣都城に生る。はじめ中原南漫に師事したが、三十二年上京して橋本雅邦、川合玉堂の門に遊び、ことに山水を良くした。帝展第二回よりの審査員、昭和七年歿、年五十五。本圖は第五回文展三等賞におされた作。

134 故山 田敬中 美音

東京美術學校蔵

旧姓島根、名は忠職、明治元年東京に生れ、月岡芳年、川端玉章に師事。東京美術學校助教授を拜した後、石川縣立工業學校の教頭として約十年金澤にあり、文展、帝展にも出品、大正九年には推薦、昭和九年歿、年六十七

135 故安 田老山 楓橋秋水圖

東京朝倉文夫氏蔵

名は養、天保元年に生る。美濃の人。早く繪を志して長崎へゆき、鉄翁について學ぶ。のち約十年支那にあり、胡公壽等に學ぶ。明治八年帰朝後は東京に住して時流の文人畫界にのり出し、當代唯一の聲名があつた。明治十五年歿、年五十五

136 安田 鞞彦 守屋大連(明治四二年)

侯爵細川護立氏蔵

名は新三郎、明治十七年東京に生る。小堀鞞首の門に入り、また東京美術學校に學ぶ。三十四年今村紫紅等と紅兒會を組織した。その後岡倉天心、橋本雅邦等に知られ、豊太閣、守屋大連、夢殿などの諸作を発表して名聲あがる。大正三年日本美術院再興とともにその同人たり、昭和九年には帝室技藝員、現に帝國藝術院會員である。本圖は第二回文展に對抗した國畫玉成會の展覽會に出品した著名の作である。

137 結城 素明 轉 (明治四四年第五回文展優状)

浜松木下半氏蔵

名は貞松、明治八年東京に生る。川端玉章に師事し、三十年東京美術學校日本畫科卒業、ついで同校西洋畫科にまなぶ。三十三年卒平福百穂等と元聲會を創立、大正五年には金鈴社に参加、大正十四年帝國美術院會員となる。久しく美術學校教授たり、現に帝國藝術院會員。本圖は當時新傾向の作である。

138 横山 大觀 村童觀猿翁圖(明治二六年)

東京美術學校蔵

139 同 無 我(明治三〇年)

帝室博物館蔵

140 同 山 路(明治四四年)

侯爵細川護立氏蔵

明治元年水戸に生る、名は秀麿。二十六年東京美術學校第一回卒業生として時の校長岡倉天心に親炙した。明治三十一年天心、雅邦等と日本美術院を創立、文展開設より七回まで審査員たり、大正三年下村観山等と日本美術院を再興、院を率ゐて今日に至る。現に帝室技藝員、帝國藝術院會員、畫壇の長老である。昭和十二年初の文化勳章を拜受した。村童觀猿翁圖は東京美術學校の卒業製作、人物は師友の顔になぞらへたといはれる。

141 故渡 邊小華 花卉圖

東京阪田八十郎氏蔵

名は譜、字は詔卿天保五年渡辺華山の次男として生る。畫を父及び椿椿山にうけ、經史を大橋訥庵、詩を関根痴堂にまなぶ。花鳥畫家として名あり。明治二十年歿、年五十四。

142 故渡 邊省亭 雪中雞(明治二六年)

帝室博物館蔵

嘉永四年江戸に生る。名は良助。十六歳より菊地齋齋について學び、明治十一年パリ万国博覽會には妙技賞を得た。花鳥を得意として新旗幟を立て、博覽會、共進會等に屢々賞牌を獲て名聲をあげた。その「花鳥畫譜」はよく知られる。大正七年歿、年六十八。本圖はシカゴ万国博覽會に出品されたもので彼の代表作である。

油彩畫

(五十音順) 各項括弧内は制作の年を示す)

- 1 故青 木 繁 海の幸 (明治三七年) 東京石橋正二郎氏藏
- 2 同 わたつみのいろこの宮 (明治四〇年) 東京石橋正二郎氏藏
- 3 故青 山熊 治 ホワンチウ (明治四四年) 男爵岩崎小彌太氏藏
- 4 赤松 鱗作 夜汽車 (明治三三年) 東京美術學校藏
- 5 故淺 井 忠 收 穫 (明治三二年) 東京美術學校藏
- 6 同 グレー秋景 (明治三四年) 東京淺井眞氏藏
- 7 同 縫ひもの (明治三五年) 東京反町茂作氏藏

明治十五年久留米市に生る。同三十二年十七才にして小山正太郎の不同舎に入る。同三十二年東京美術學校に入學、三十七年卒業。三十六年「貴泉比泉坂」「關威彌尼」を白馬會に出品。白馬賞を受け、その異才を知らる。同四十四年三十才を以て夭折す。「海の幸」は明治三十七年白馬會に出品。世評を高めしもの。「わたつみのいろこの宮」は明治四十年東京府勸業博覽會に出品、三等賞を受けし作品。

明治十九年兵庫縣に生る。山本芳翠、黒田清輝等に師事。東京美術學校卒業後同四十年東京府勸業博覽會に「老坑夫」出品。二等賞を受く。文展に於て数度受賞、大正十五年帝展に「高原」を出品し帝國藝術院賞を受け、後帝展審査員となる。昭和十一年歿。本圖は明治四十四年第五回文展に出品せるもの、此の時同時に出品せる「金佛」により二等賞を授けられた。

明治十一年岡山縣に生る。同三十二年東京美術學校洋畫科を卒業、白馬會展覽會に於て白馬賞を受く、文展、帝展に出品、現在文展無鑑査本圖は白馬會展に出品、次で第五回内國勸業博覽會に出品したものである。

8 同

瀨家屯天長節祝宴 (水彩) (明治二七年)

東京淺井眞氏藏

安政三年江戸に生る。明治九年國澤新九郎の彰技堂に入り、次で工部美術學校に入學、フォンタネーシの指導を受く。同十一年フォンタネーシの歸國に際し同志と共に退學、小山正太郎、松岡壽等と十一字會を結び研鑽す。二十二年同志と明治美術會を組織し、洋風畫の發展に盡力、同三十一年東京美術學校教授に任せられ、三十三年佛蘭西に留學、三十五年歸朝、京都高等工藝學校教授に任せられ、又関西美術院を開き、京都美術界に貢献した。四十年文展審査員となつたが、此の年歿した。門下に石井柏亭、渡辺審也、安井曾太郎、梅原龍太郎、津田青楓、都鳥英喜等がある。「收獲」は第二回明治美術會展に出品されたもので、その初期の代表作であり、「グレー秋景」は瀨佛中巴里郊外グレーに於ける作品。「縫ひもの」は瀨佛中の作品。「瀨家屯天長節祝宴」(水彩)は日清戰役從軍中の所産で、特意の水彩畫を以て大山大將を中心に開かれた天長節の夜宴を寫したものである。明治二十七年日清戰役に際し從軍した畫家に山本芳翠、小山正太郎、黒田清輝、中村不折、久保田米隠等があるが、淺井も亦早く從軍した。此の時の作品として「樋口大尉小兒を扶くる圖」「旅順戰役の搜索」等著名な作品がある。

9 有島 生馬

畫室の少女 (明治四二年)

東京作者藏

明治十五年横浜に生る。東京外國語學校卒業、藤島武二に師事。同三十八年渡欧初めカロリユス・デュランの指導を受け、又羅馬國立美術學校に學ぶ。又暫時巴里に滞在、同四十二年歸朝す。大正三年同志と二科會を創立し、その會員となつた、昭和十年帝國美術院會員、同十三年帝國美術院會員となる。又同志と一水會を組織す。本圖は瀨歐中のものである。

10 故 安藤 仲太郎

伊藤博文公像 (明治二十五年)

貴族院藏

文久元年江戸に生る。その伯父高橋由一の天繪學舎に學び、塾頭となつて後進を誘掖した。明治二十六年市俄百萬國博覽會に際し渡米し、又同二十八年第四回内國勸業博覽會には審査官に擧げらる。同二十九年白馬會の創立に加はり同四十四年李王殿下の肖像揮毫を命ぜられて渡鮮、健康を害し、翌四十五年歿した。遺作には朝野名士の肖像畫多く、本圖は初代貴族院議長伊藤公を親しく寫生したもの。

11 故 伊藤 快彦 處

女 (明治四四年)

京都伊藤快則氏藏

慶應三年京都に生る。明治二十年京都府畫學校を卒業、後東京に出で原田直次郎に師事し、又獨乙ミンヘンに遊學して同美術學校を卒業、

後京都の関西美術院教授、同院長として京都洋風畫界に盡すところがあつた。昭和十七年逝去。

12 故伊 東 函 嶺 徳川慶喜公像

公爵 徳川 慶光 氏 蔵

文久二年神奈川縣に生れた。川村清雄に就いて學び、明治三十五年川村、五姓田芳柳(二代)東城鉦太郎、石川欽一郎等とトモエ會を組織展覽會を開いた。昭和六年歿。

13 石 井 柏 亭 熊野河口(明治四二年文展)

和歌山 尾崎 作次 郎 氏 蔵

14 同 獨逸の女(明治四五年)

東京 岡崎 正彦 氏 蔵

明治十五年東京に生る。浅井忠に師事、後東京美術學校に入學したが病のため退學。四十三年、大正十二年渡欧、初期文展に出品、大正三年同志と二科會を創立、昭和十二年帝國藝術院會員となる。又同志と一水會を組織す。「熊野河口」は優賞を受けたもの。「獨逸の女」は滯歐作で、第六回文展に出品した。

15 石 川 寅 治 農家の内部(明治三年)

東京 佐藤 功 茂 氏 蔵

明治八年高知市に生れ、小山正太郎に就て學ぶ。同三十五年欧米に留學、明治美術會、太平洋畫會に出品し、四十年東京府勸業博覽會に出品三等賞、第二回文展に於て三等賞を受けた。其後帝展審査員或は新文展審査員に擧げられる。本圖はその初期の作品で明治美術會展に出品されたもの。

16 石 川 欽 一 郎 新 高 山

東京 台 湾 協 會 蔵

明治四年静岡縣に生る。川村清雄、アルフレッド・イーストに師事した。明治三十五年川村等とトモエ會を組織展覽會を開催した。専ら水彩畫を描いて知られてゐる。文展無鑑賞、光風會會員。

17 故 石 橋 和 訓 美人讀詩圖(明治四二年文展)

東京 三井洋畫コレクション 蔵

明治九年島根縣に生る。初め瀧和亭に日本畫を學んだが、同三十六年英國に留學、同四十年ローヤル・アカデミーを卒業、大正七年歸朝して

文展推薦となり、又帝展審査員となつた。同十年再渡英十三年歸朝した。アカデミックな畫風を以て名士の肖像畫を多く描いてゐる。昭和三年歿す。本圖は留學中の作品で、三等賞を受く。

18 故 五 百 城 文 哉 日 光 風 景

東京 木 下 孝 則 氏 蔵

文久三年水戸に生る。明治十七年の頃洋畫に志して高橋由一の門に入る。高橋源吉、浅井忠或は小山正太郎等の指導を受く。二十三年の第三回内國博覽會には大作数点を出品したが、後日光山の寫生に赴き、その山水に魅せられて晩年を日光山麓に送り、同地に三十九年歿す。門弟に小杉放庵がある。

19 故 岩 橋 教 章 鴨の靜物(水彩)(明治七年)

東京 三井洋畫コレクション 蔵

天保三年伊勢松坂に生る。明治六年壞國ウイーン万国博覽會に際して渡欧、ウイーンにおいて圖案及び銅石版畫を研究して同八年歸朝した。大藏省紙幣寮、内務省地理局へ勤務した、明治十六年歿。

20 故 印 藤 眞 楯 寺院の内部

東京 石 井 柏 亭 氏 蔵

文久元年生。初め川上冬崖に師事し、後工部美術學校に入學、フォンタネーシの畫陶を受く、一時東京に私立泰西畫專門學校を設立したが、後京都に移り、美術工藝圖案の改善に努力するところがあつた。大正十三年歿す。

21 梅 原 龍 三 郎 モーレ風景(明治四四年)

東京 反 町 茂 作 氏 蔵

明治二十一年京都に生れ、伊藤快彦浅井忠の畫陶を受く。同四十二年佛蘭西に留學、ルノアールの指導を受け、大正二年歸朝。同三年二科會の創立に參畫、同九年秋再渡欧、同十五年國畫創作協會會員となり、國畫會と改稱後はその頭梁として活躍、昭和十年帝國美術院會員、十二年帝國藝術院會員に擧げらる。此の作品はその第一次留學時代のもの。

22 故 岡 精 一 搜 索(明治三年明治美術會)

東京 三井洋畫コレクション 蔵

明治元年東京に生る。浅井忠、本多錦吉郎に學び、又不同會に於て小山正太郎の畫陶を受く。三十四年渡米、更に英、佛に遊び、巴里に於て

ジャン・ポール・ローランスに師事、四十一年帰朝。

23 故 大下藤次郎 植物園

東京 三井洋行コレクション蔵

明治七年東京に生る。同二十四年中丸精十郎に就學、二十八年原田直次郎と相識りその指導を受く。三十一年軍艦金剛に便乗濠洲に遊び、三十五年欧米遊行、三十六年六月帰朝、太平洋畫會々員となつた。三十八年雜誌「みづゑ」を創刊、翌年丸山晩霞、河合新藏等と日本水彩畫會を創立、水彩畫研究所を開いた。四十四年歿した。彼は生涯を水彩畫の發達普及に盡した。

24 織田一麿 鼠色の海(明治四二年文展)

東京作 著 蔵

明治十五年東京に生る。二十八年頃家族に従つて大阪に移り、三十六年再び上京して川村清雄に師事し、トモエ會に出品、文展創設以後主として文展、帝展に出品してゐる。現在文展無鑑査。尙彼は石版制作家として知られてゐる。

25 故 岡田三郎助 矢調べ(明治三六年)

東京 石尾佐與氏蔵

26 同 大隈伯爵夫人肖像(明治四二年)

東京 早稻田大學蔵

明治二年佐賀市に生る。初め曾山幸彦に師事したが、その逝去と共に曾山藝を継承せる大幸館に於て堀江正常に學ぶ。二十六年修業、此の年新歸朝の黒田清輝、久米桂一郎と相識りその感化を受く。同二十九年東京美術學校助教授となり、又白馬會の創立に参畫、三十年文部省留學生として渡佛、ラファエル・コランの門に入る。三十五年帰朝、東京美術學校教授に任ぜられた。その後文展審査員、帝國美術院會員となり、昭和九年帝室技藝員拜命同十二年多年の功により文化勳章を授けられた。同十四年歿、享年七十一。「矢調べ」は大幸館修了の際の作品で、その初期の作風を示すものであり「大隈伯爵夫人肖像」は第三回文展に審査員として出品せるものである。

△ 27 故 加地爲也 毛利忠正公像

公爵 毛利元道氏蔵

和歌山藩士で、明治八年渡米、同十一年頃より西洋畫に専心し、次で英國を経て伯林に赴き、駐獨青木公使の援助のもとに同地大學において人物動物を研究した。帰朝の後第三回内國勲業博覽會審査員に擧げられたが、同二十七年歿した。その得意とするところは肖像畫であつた。

28 故 加藤靜兒 元學習院

東京 美術學校蔵

明治二十年愛知縣に生れ、同四十三年東京美術學校を卒業、第三回および第六回文展において優賞を受く、帝展および新文展の無鑑査であり光風會々員であつた、昭和十七年歿す。本圖はその初期の作品であり、明治四十二年第三回文展において優賞を受けた。

29 故 川村清雄 畫室

侯爵 西郷從德氏蔵

嘉永五年江戸に生る。初め旧幕府開成所において川上冬庵の藏陶を受けた。明治四年米・佛國を経て伊太利亞に赴き、ヴェネチアのア카데미に學んだ。同十四年帰朝、大藏省印刷局に一時勤務した、又麹町に家塾を開き後進を指導す、明治美術會の創立にも参畫した。三十五年同志とトモエ會を組織し、晩年は展覧會に發表せず、畫壇から遠ざかつてゐた。昭和九年歿、享年八十三。

30 故 河北道介 自畫像(明治十九年頃)

東京 美術學校蔵

嘉永三年長門萩に生る。川上冬庵及びアヘル・ケリノーに師事。明治七年陸軍士官學校圖畫教授掛となつて、同二十二年佛蘭西に留學し滞在八年同三十年帰朝、同三十三年の巴里万国博覽會には事務官及び鑑査官を命ぜられ、同年渡佛、翌三十四年帰朝した。晩年朝鮮に赴き開拓事業に轉じたが、同四十年志半にして歿す。

31 故 河合新藏 セーナ河畔(明治三七年太平洋畫會)

東京 小島烏水氏蔵

慶應三年大阪に生る。明治二十四年東京に出で五姓田芳柳、小山正太郎に學ぶ。三十四年より三十七年に亘り滯歐米、大下藤次郎等と日本水彩畫會を創立、水彩畫の發達に貢献した。旧帝展無鑑査、太平洋畫會々員、昭和十一年歿。

32 故 龜井至一 美人彈琴圖(明治三三年内國博)

千葉村井賴子氏蔵

天保十四年江戸に生れ、横山松三郎に學ぶ、肖像畫或は日光風景等を得意としたが、就中美人畫は著名であるし油繪と共に石版畫をよくした晩年不忍池畔に居を下したが、明治三十八年歿す。

33 故 鹿子木孟郎 ローランス畫伯の肖像(明治三九年)

男爵 住友吉左衛門氏藏

明治七年岡山縣に生る。松原三五郎、小山正太郎に師事。同三十三年渡米、翌年英國を経て巴里に赴きアカデミー・ジュリアンに於てローランスの真傳を受け三十七年帰朝した。同三十九年、大正四年更に渡歐。文展、帝展審査員、太平洋畫會々員、関西美術院々長であつた。昭和十六年京都に歿す。本圖は清佛中の作品であり、その師ローランスを寫生したものであつて、明治四十一年第二回文展に出品した。

34 北 蓮 藏 遺 兒(明治三年白馬會)

東京 長尾一平氏藏

明治九年岐阜縣に生る。山本芳齋、里田清輝に師事、同三十一年東京美術學校を卒業、もと白馬會々員、現在文展無鑑査。

35 故 キヨソーネ 三條實美公像(コンテ畫)(明治三年)

公爵 三條公輝氏藏

36 同 大山巖公像(明治八年)

公爵 大山 柏氏藏

37 同 大山公夫人像(明治八年)

公爵 大山 柏氏藏

天保三年伊太利亞に生る。ヂエノヴァ市アツカデミア・リグステイカ・テイ・ベルレ・アルテイを卒業、明治二年ミラノのアツカデミアの會員となる。同八年大藏省紙幣寮に招聘されて來朝、多くの紙幣、郵便切手等の原版を彫刻した。又明治天皇の御尊影をはじめ明治元勳功臣の肖像畫をコンテ畫或は銅、銅版畫に製作した。明治三十一年東京に歿す。「三條實美公像」は三條公五十三歳、内大臣時代の肖像「大山巖公像」は明治二十七年、八年戰役に第二軍司令官として戦功を立て、凱旋せる大山大將を寫したもので、「大山公夫人像」は大山巖公夫人の肖像、前圖と同時代の製作である。

38 故 國澤新九郎 自畫像(明治七、八年頃)

東京 美術學校藏

弘化四年土佐に生る。明治二年渡英、倫敦に於て畫技を習ひ、同七年帰朝した。麴町區畢町に影技堂を創立して門弟を養ふ。又早く洋風畫展會を開いてその普及に努力する等明治洋風畫界の先進者であつたが、明治十年夭折した。その門人中著名な者に本多錦吉郎、浅井忠等がある。

39 故 久米桂一郎 プレハの海岸(明治四年)

東京 原 嘉道氏藏

40 同 清水秋景圖(明治二年万国博二等賞)

伯爵 樺山 愛輔氏藏

慶應二年八月佐賀に生る。初め藤雅三の指導を受く。明治十九年佛蘭西に留學ラファエル・コランの門に入る。此の時黒田清輝と、知り互に研鑽努めた。同二十六年帰朝、翌二十七年黒田と共に天真道場を創立し、又同二十九年東京美術學校に洋畫科の創設さるゝに當り、黒田と共に入つて後進を指導した。又同年白馬會を黒田其他の同志と創立した。後文展審査員、帝國藝術院幹事、東京美術學校名譽教授となつた。彼は初期に於て多くの製作を遺し、中期以後はむしろ美術行政家として活躍した。「プレハの海岸」は清佛中黒田と共に南佛ブレハ島に遊んだ時の作品、「清水秋景圖」は帰朝の年の製作で三十三年巴里万国博にも出品された。

41 故 黒田清輝 西洋婦人納涼圖(明治五年)

東京 吉田 良兼氏藏

42 同 朝 粧(明治二年)

男爵 住友吉左衛門氏藏

43 同 湖 畔(明治三〇年)

美術 研究所藏

44 同 大隈重信侯像(明治三六、七年)

東京 早 稲 田 大 學藏

45 同 鐵砲百合(明治四二年文展)

東京 鈴木 維 房 氏藏

慶應二年鹿兒島に生る。幼くして伯父子爵黒田清輝の養子となる。明治十七年法律研究の爲渡佛、法科大學に學んだが、轉じて西洋畫の研究に専念し、ラファエル・コランに師事。二十六年帰朝、二十七年天真道場を創立し、同年日清戰役に従軍、二十九年東京美術學校に西洋畫科の創設さるゝや推されて指導者となつた。又此の年同志と白馬會を創立し、爾後毎年展覽會を開催した。三十三年翌年に互り佛、伊を巡歴、四十年又展の創設に盡力し審査員となる。四十三年洋風畫家最初の帝室技藝員を拜命、大正八年帝國藝術院會員、十一年同院々長となつた。晩年貴族院議員として活躍した。大正十三年薨去、享年五十九、その初期の門人には白清澄之田、澁沢一郎、北蓮藏、阪田三郎助、和田英作、小

林万吾等がある。「西洋婦人納涼圖」は滑佛中の製作で、翌年獨立美術協会のサロンに他の五点と出品。「朝粧」は巴里に於て佛蘭西公使野村清の援助に依り制作されたもので、ピニヴィス・ド・シヤヴァンヌ、ラファエル・コランの批評を受けて後同年の佛蘭西國民美術協会のサロンに出品した。帰朝後明治二十七年の明治美術會に出品、更に翌二十八年京都に於ける第四回内國勸業博覽會に審査官として二等賞を授けられたが、一面文化程度の低かつた當時の社會に甚大な論議を喚起した。「湖畔」は夏季箱根に於ける製作、同年第二回白馬會展に出品、更に三十三年巴里万国博にも出品された。「大隈重信侯像」は明治三十六年初春より翌年二月に亘り、大隈侯の私邸を数次訪問親しく實生せるものである。

46 故 熊谷守一 自畫像 (明治三十七年美校卒業制作) 東京美術學校藏

明治十三年岐阜縣に生れ、同三十七年東京美術學校洋畫科を卒業した。初期文展に出品、後二科會會員となつた。

47 故 小山正太郎 川上冬崖像 (明治一四年) 東京美術學校藏

安政四年越後長岡に生る。初め川上冬崖、アベル・ゲリノーに就て學び、次で明治九年工部美術學校に入學フオンタネーの指導を受く。同十一年退學、同志と共に十一字會を組織して研鑽、同二十年不同舎を起して子弟を誘致す。同二十二年浅井忠、松岡壽、本多錦吉郎等當時の洋風家を網羅して明治美術會を創設した。又長く東京高等師範學校に奉職した。門弟の主なる者に中村不折、瀧谷國四郎、石川寅治、鹿子本孟郎吉田博、中川八郎、小杉未醒等がある。此の作品はその師川上冬崖の肖像である。

48 故 小林萬吾 物おもひ (明治四〇年第一回文展三等賞) 東京美術學校藏

明治三年香川縣に生れ、原田直次郎、安藤仲太郎、黒田清輝に師事、同三十一年東京美術學校洋畫選科卒業、第五回内國博に「門つひ」を出品三等賞、東京勸業博において二等賞を受く、文展において数回受賞、帝展第二回より審査員、明治四十四年より大正二年まで滞歐。東京美術學校教授、帝國藝術院會員である。

49 故 小杉放庵 水郷 (明治四四年第五回文展二等賞) 文部省藏

旧号未醒。明治十四年栃木縣日光町に生る。五百城文哉、小山正太郎の指導を受く。文展に出品して屢々受賞、その名を知られた。大正元年

歐洲に遊び、翌二年帰朝、同三年再興日本美術院同人となり日本美術院洋畫部を組織活躍した。同九年同志と退院、同十一年春陽會を創立した。昭和十二年帝國藝術院會員に擧げられた。

50 故 五姓田芳柳 西南役大阪臨時病院 (明治一四年) 東京美術學校藏

文政十年江戸に生る。初め歌川國芳に就て浮世繪を學ぶ。長崎に於て和蘭畫を見、遂に洋風畫の研究に志し、獨學數年一派を開くに至る。幕末より明治六年迄横浜に於て活躍し、後東京浅草に移つた。明治二十五年歿す。その門に山本芳翠、五姓田義松が出た。此の圖は明治十年官命により大阪臨時病院に至り、寫生せるもの、成果である。

51 故 五姓田義松 操人形 (明治一六年) 東京美術學校藏

安政二年初代芳柳の次男として江戸に生る。若冠ワグマンに師事、明治九年工部美術學校に入學、十年退學した。第一回内國勸業博覽會に於て鳳紋賞を授與された。同十一年孝明天皇の御尊影拜寫の御下命を受け、又同年明治天皇の北陸、東海御巡幸に扈從した。同十三年渡佛レオン・ボナーに師事、同二十一年帰朝した。同二十三年父芳柳と亞米利加に遊んだ。帰朝以來健康を害し、晩年は振はなかつた。大正四年横浜に歿。此の圖は滑佛中の制作であり、その代表作として得るものである。

52 故 兒島虎次郎 讀書 (明治四〇年) 岡山大原美術館藏

明治十四年岡山縣に生る。同三十七年東京美術學校卒業、東京勸業博に「情の庭」等出品一等賞を受けた。四十一年渡歐、佛蘭西、白耳義に學び大正元年帰朝。その後同七年、同十一年再三渡歐。同九年サロン・ソシエテ・ナシヨナルの正會員、昭和二年帝展審査員となつた。昭和四年歿。

53 故 佐久間文吾

御物 和氣清麿奏神教之圖額 (明治二十三年)

明治元年福島縣に生る。初め本多錦吉郎に師事、後不同舎に入り小山正太郎の指導を受けた。二十三年第四回内國勸業博に本圖を出品して妙

技三等賞を受けた。

54 故 彭 城 貞 徳 和洋合奏之圖額 (明治三六年)

東京 三井洋行コレクション蔵

安政五年長崎市に生れ、明治五年上京初め高橋由一に師事、次で上野美術學校に入學、同二十六年市俄古万国博に際し渡米、費府美術學校に學んだ。更に革佛に滞在、同三十四年帰朝、その郷里の諸校に於て子弟を指導して、大正四年上京、晩年は日本橋に陶家を構へ自ら創作した。非常に多趣味で、殊に音楽を好み、尺八は二代目一調として知られてゐた。昭和十三年歿。

55 坂本繁次郎 張り物 (明治四三年第四次展覧會)

兵庫 藤木正一氏蔵

明治十五年久留米に生る。不同舎に入り小山正太郎の指導を受く。初期展覧會出品、後二科會々員となつた。大正十年より十三年迄滞欧。

56 故 サン・シヨヴァンニ 山尾忠次郎像 (明治三一年)

子爵 山尾三郎氏蔵

伊太利亜出の畫家。明治十三年工部美術學校教授として招聘された。同十六年帰國。門下に曾山幸彦、松室重剛、藤雅三等あり、人物畫を得意とし明治十四年第二回内閣勸業博覽會に出品せる「工部卿山尾庸三像」「婦人三絃調奏圖」は有名であつた。此の作品は署名はないが現在日本に於ける唯一の作品と考へられる。

57 白瀧幾之助 稽古 (明治三〇年第二回白馬會)

東京美術學校

明治六年兵庫縣に生る。山本芳潔、黒田清輝に師事、三十一年東京美術學校洋畫選科卒業。三十七年より四十二年迄欧米留學、大正十一年再渡歐し翌年帰朝。第九回内閣博にて三等賞。白馬會、文展、帝展に出品、第二回帝展以來審査員となる。

58 故 曾 山 幸 彦 辻講釋 (明治一〇年代)

東京 大野竹二氏蔵

安政六年鹿兒島に生る。工部美術學校に於てサン・シヨヴァンニの指導を受け、明治十六年同校修業。後東京帝國大學工學部助教となる。又芝山内に家塾を設け後進を指導す。晩年大野氏を継ぐ。二十五年歿、享年三十四。その門に岡田三郎助、和田英作、中澤弘光、三宅重巳、矢崎千代二出づ。

59 故 高 橋 由 一

御物 岩倉具視之像圖額

60 鮭 (明治一〇年頃)

東京美術學校蔵

文政十一年江戸に生る。文久二年蕃書調所畫學局に入り、川上冬庵の薰陶を受く。又ワグマンに実技を學ぶ。明治六年浜町に畫塾天繪樓を創立し後進を指導す。十二年元老院の命により明治天皇の御尊影を謹寫し奉つた。明治二十七年歿。享年六十七。その門に安藤伸太郎、原田直次郎、五百城文哉、嗣子源吉等がある。「鮭」は彼の寫實的な静物畫中傑出せるものである。

61 故 高 橋 源 吉 (明治二〇年頃)

衆議院蔵

文久元年高橋由一の子として江戸に生れた。明治九年工部美術學校に入學フオンタネーシの薰陶を受けた。同十一年浅井忠、小山正太郎等の同志と十一字會を作り、又明治美術會の創立に参畫した。晩年中央畫壇を離れ、大正二年宮城縣に於て歿した。享年五十三。

62 故 高 橋 勝 藏 静物

東京美術學校蔵

万延元年磐城國に生れた。渡米明治十八年桑港に於て畫技を學び、次で市俄古に於て劇場背景畫を研究した。同二十六年帰朝。劇場背景畫の改良に努め、諸所の劇場に執筆した。

63 高 村 眞 夫 停車場の夜 (明治四二年第三次展覧會)

帝國博物館蔵

明治九年新潟縣に生る。同三十二年上京不同舎に入り小山正太郎の指導を受けた。同四十年東京府勸業博覽會に於て三等賞其後文展に於て数次受賞。大正三年より同五年に亙り外遊。文展無鑑査、太平洋畫會々員である。

64 高 木 背 水 英國風景 (明治四三年)

侯爵 鍋島直映氏蔵

明治十年佐賀に生る。大野幸彦、堀江正章に師事、白馬會研究所に學んだ。同三十七年米國に遊學、三十九年帰朝、更に四十三年渡欧英、佛

白を懸遊同四十五年帰朝した、本圖は英國に於ける作品である。

65 田邊 至 窓邊の肖像 (明治四三年第四回文展)

東京美術學校藏

明治十九年東京に生る。四十三年東京美術學校卒業、大正十一年より十三年迄瀋陽。昭和二年帝展に出品せる「裸婦」により帝國美術院賞を受く。帝展、新文展審査員、東京美術學校教授。

66 辻 永 飼れたる山羊 (明治四三年第四回文展優賞)

東京作 著 藏

明治十七年廣島に生れた。黒田清輝に師事、同三十九年東京美術學校を卒業した。大正九年より翌年にわたり外遊。旧文展においてしばく受賞、帝展審査員となり、新文展においても数次審査員に擧げられた。

67 故 東城 鈕太郎 日清戦役平壤の戦 (明治五年)

東京 長岡護一氏藏

慶應元年江戸小石川に生る。川村清雄に師事、明治三十五年川村その他の同志とトモエ會を創立し展覽會を開く。日露戦役には海軍に従軍した。四十二年日英博覽會に際し渡欧。戦争畫家として有名であり、就中「三笠艦上の東郷提督」は普く知られるところである。昭和四年房州に歿。享年六十五。

68 故 床次 正精

御物 薩摩湯圖額 (明治九年)

天保十三年鹿兒島に生る。慶應の頃長崎に於て油繪を見、遂に洋風畫の研究を志し、刻苦数年遂に一家をなす。明治九年の頃仙台上級裁判所檢事となる。十五年勅命により日光名勝圖を作り、又憲法発布に際しその祝宴圖を描く。最も知らるゝものに西郷南洲翁像がある。明治三十年歿、享年五十六。政治家故床次竹次郎はその息である。

69 都鳥 英喜 戦傷士の俵 (明治四十年)

陸軍大學校藏

明治六年千葉縣に生れた。浅井忠に師事した。京都に移り、現京都高等工藝學校校長、太平洋畫會、文展、帝展に出品し、現在文展無鑑査で

ある。大正八年より十年まで瀋陽、本圖は日露戦役に出征せる作者の記念的な作品である。

70 故 中川 八郎 北國の冬 (明治四一年第二回文展)

文 部 省 藏

71 同 野 薔 薇 (明治四二年第二回文展三等賞)

文 部 省 藏

明治十年愛媛縣に生る。大阪において松原三五郎に學び、次で上京不同會に入る。三十二年吉田博等と欧米巡遊、三十五年太平洋畫會の創立に参畫し、三十六年再渡欧、文展において屢々受賞、第五回展より審査員。晩年更に渡欧、途次病を得て帰朝大正十一年歿。享年四十六。

72上 中村 不折 老人半身像

東京 三井洋畫コレクション藏

下 同 自畫像

文 部 省 藏

慶應二年江戸に生る。明治二十年十一字會研究所に入り小山正太郎の薫陶を受けた。同三十四年渡佛、コランに就學、次でアカデミー・ジュリアンに於てジャン・ポール・ローランスの指導を受く。三十八年伊、英に遊び同年帰朝、太平洋畫會々員となる。文展審査員を経て大正八年帝國藝術院會員、昭和十二年帝國藝術院會員となつた。本作品は瀋陽中の制作である。

73 故 中村 彝 海邊の村 (明治四三年第四回文展三等賞)

帝室博物館藏

74 同 女 (明治四四年第五回文展三等賞)

公爵 徳川 圀順氏藏

明治二十年水戸に生る。初め陸軍幼年學校に學んだが病を得、轉じて洋風畫に志した。三十九年白馬會研究所に入り、翌年太平洋畫會研究所に移つた。文展及び帝展に出品して度々受賞、「エロシエンコ像」をはじめ多くの名作を作つた。大正十一年帝展審査員、同十三年歿。

75 故 中丸 精十郎 舊岩倉邸の圖

公爵 岩倉 具榮氏藏

天保十二年甲府に生れ、初め京阪に遊び日根対山に就て南畫を學び金峰と号した。明治五年上京、川上冬崖の鹽香讀畫館に入り、次いで工部

美術學校に於てフオンタネージに就いて學んだ。後神田猿樂町に家塾を営み、又參謀本部陸地測量部に仕出した。遊就館に陸軍將官の肖像多數を遺してゐる。明治二十九年歿した。

文部省藏

76 ● 中澤弘光 おもひで (明治四二年第二回文展二等賞)

明治七年東京に生る。初め會山幸彦に學び、次で黒田清輝の薰陶を受けた。三十二年東京美術學校洋畫科を卒業。白馬會々員として白馬會展に作品を発表、又文展に於て屢々賞を受けた。四十三年文展審査員、昭和五年帝國美術院會員に擧げられ、同十三年帝國藝術院會員を拜命した。

東京安田岩次郎氏藏

77 故長原孝太郎 停車場の夜 (明治四〇年)

元治元年岐阜縣に生る。明治十九年同舎に入り、小山正太郎の指導を受く。三十一年東京美術學校助教となり、後教授に任せらる。大正八年以來帝展審査員であつた。昭和五年歿。享年六十七。

東京橋口康雄氏藏

78 故橋口五葉 羽衣 (明治四〇年第一回文展)

明治十三年鹿兒島に生る。本名清。初め橋本雅邦に就て日本畫を學ぶ。後白馬會研究所より東京美術學校西洋畫科に入り、三十八年卒業。明治四十年東京府勸業博覽會に「孔雀と印度女」を出品最高賞を受く。四十四年三越呉服店の美人畫ポスターに一等賞を受く。又藝術家として活躍し夏目漱石、永井荷風、泉鏡花等の著作の裝訂をなし知らる。浮世繪研究家として知られ又自らも木版畫を多く製作した。大正十年歿す。

東京作 者藏

79 橋本邦助 幕間 (明治四二年第三回文展三等賞)

明治十七年栃木縣に生る。白馬會研究所に學び、三十八年東京美術學校洋畫科卒業。四十四年渡歐。文展初期に於て数次授賞。現在文展無鑑査。

東京日本女子大學藏

80 故原撫松 成瀬仁藏像 (明治四四年)

文久元年岡山縣に生る。京都府立學校に入學田村宗立の指導を受け明治十六年卒業した。岡山に於て一時門名を張つたが、同二十九年上京、同三十七年倫敦に留學し、その技を認められた。同四十年歸朝したが健康を害し、多く病床に在つた。大正元年十一月歿す。その特意とす

るところは省像畫。

81 故原田直次郎 風景 (明治一九年)

高松宮家御所藏

82 同 靴屋のおやぢ (明治一九年)

東京美術學校藏

83 同 ガブリエル・マックス像

廣島黒川節司氏藏

文久三年江戸に生る。山岡正章、高橋由一に師事す。明治十七年獨逸に留學しミュンヘンに於てガブリエル・マックスに就て學ぶ。二十二年歸朝、明治美術會の創立に參畫、又博覽會審査官に推さる。本郷に畫塾鐘美堂を創立し、後進を指導す。門下に伊藤快彦、和田英作、三宅克己、大下藤次郎等あり。三十二年歿、年三十七。此の三圖いづれも獨逸留學中の製作である。

84 故百武兼行

御物 羅馬古城趾之圖額 (明治十二年)

東京美術學校藏

85 ブルガリヤの少女 (明治十二年)

天保十三年生、佐賀藩士。明治四年岩倉大使に隨行して欧米に赴く。明治七年鍋島直大侯の英國留學に隨行す。傍ら繪畫を學び、同九年頃ロイヤル・アカデミーに日本服を着たる西洋婦人像を出品す。明治十年頃巴里に移りレオン・ボナーに師事す、後一度歸朝、同十三年伊太利亞公使館書記官として渡伊、公務の余暇マツカリに就いて繪畫を研究す。同十五年歸朝、農商務省工局次長となり、同二十年歿す。

86 平岡權八郎 コック場 (明治四十三年)

東京平岡八重氏藏

明治十六年東京生。白馬會研究所に學び、文展、帝展に出品、第四回文展無鑑査光風會々員であつた。昭和十八年歿。享年六十一。

87 故廣瀬勝平 晚歸 (明治三十年第二回白馬會)

東京美術學校藏

明治十年兵庫縣生。山本芳翠、黒田清輝に學び、三十二年東京美術學校洋畫科を卒業す。白馬會、文展に出品、渡佛後病を得、大正九年佛

國に歿す。享年四十四。

88 故ビゴー演習(水彩)

東京美術學校藏

佛蘭西人、明治十七年頃來朝、陸軍士官學校圖畫教師となる。日本風俗を漫畫に描き知られてゐる。エッチングをよくした。

89 故フォンタネージ 不忍池(明治九年十一月)

東京帝國大學工學部藏

一八二八年(文政元年)伊太利亞レッツヨ・エミリアに生る。同地の美術學校卒業後瑞西、佛蘭西、英吉利に遊學す。後ルツカ及びトリノ美術學校教授となる。明治九年工部美術學校創立に際し、我政府の招聘にて來朝す。同十一年病を得て歸國、十五年トリノに歿す。その指導を受けたる者に浅井忠、小山正太郎、杉岡壽、松井昇、五姓田義松、山本芳翠、中丸精十郎、印藤眞楠等あり。

90 藤島武二 蝶(明治三十六年第九回白馬會)

東京赤星鉄馬氏藏

91 同 草の香(明治四十年)

東京鈴木六郎氏藏

92 同 池(明治四十二年)

東京美術學校藏

作者は慶應三年鹿兒島に生る。初め川端玉章に師事、次で曾山幸彦、中丸精十郎、松岡壽、山本芳翠の指導を受く。明治二十九年東京美術學校助教授に擧げられた。同三十八年歐洲留學、佛、伊に滞在す。同四十三年歸朝、東京美術學校教授に任せられ今日に至る。文展、帝展の審査員を經、大正十三年帝國美術院會員、昭和九年帝室技藝員を拜命、同十二年文化勳章を授與された。「蝶」はその初期の裝飾畫風の傾向を知り得るもの。「草の香」は滯歐作であつて、大正七年第十二回文展に出品。「池」は伊太利亞留學中の作品である。

93 故本多錦吉郎 三保海岸富士圖

東京河合勝夫氏藏

嘉永三年江戸に生る。國澤新九郎に師事、國澤の没後その畫塾彰技堂を承継、後進を指導した。造園について造詣深く、陸軍士官學校、陸軍幼年學校等に教鞭をとつた。大正十年歿享年七十二。

94 眞野紀太郎 印材(靜物)

公爵三條公輝氏藏

明治四年名古屋に生る。中丸精十郎、原田直次郎等に師事、現に文展無鑑査

95 松岡壽

御物 伊太利兵士圖額(明治一九年)

96 同 凱旋門(明治一五年)

東京美術學校藏

97 同 父の像(明治二年第一回明治美術會)

神奈川作 著 藏

文久二年岡山に生れ、明治六年川上冬崖の聽香讀畫樓に學び、九年工部美術學校に入りフォンタネージの薰陶を受く、同十三年伊太利に留學し羅馬美術學校を卒業、二十年歸朝す。二十二年同志と明治美術會を創立し活躍す。後東京美術學校教授、東京高等工藝學校校長となつた。「伊太利兵士圖」は滯歐中の作、伊太利ベルサリエーレ(騎騎兵)の歩哨を描けるもの。「凱旋門」は羅馬コンスタンチン凱旋門を寫せるもので、初期の代表作。

98 故松井昇

御物 軍人遺族圖額(明治二八年)

安政元年伯馬國出石町に生る。川上冬崖に師事、次で工部美術學校に入學、フォンタネージの指導を受けた。同志と十一字會を組織研鑽に努め、又明治美術會の創立に参畫しその會員となつた。長い間陸軍幼年學校教授であり、又日本女子大學教授であつた。

99 故丸山晚霞 白馬の神苑(明治四〇年文展)

東京小島烏水氏藏

名健作。慶應三年信濃に生る。本多錦吉郎に師事明治三十二年より三十四年に亘り歐米巡遊、四十七年再渡歐四十五年歸朝。太平洋畫會に属

し水彩畫家として知られた、昭和十七年歿。享年七十六。

100 故 滿谷國四郎

御物 林大尉戰死之圖額(明治三十一年明治美術會)

101 自畫像(明治三十七年太平洋畫會)

102 戰語り(明治三十九年太平洋畫會)

明治七年岡山縣に生る、二十四年上京五姓田芳柳に就學、二十五年不同會に入り小山正太郎の藏陶を受く。三十三年欧米に遊び三十四年帰朝三十五年同志と太平洋畫會を創立す、四十四年再渡欧、大正三年帰朝。文展、帝展審査員を経て大正十四年帝國美術院會員となる。昭和十一年歿。

103 南 薰造 坐せる女(明治四三年第四回文展三等賞)

侯爵 細川護立氏藏

明治十六年廣島縣に生る。同四十年東京美術學校卒業。此の年より四十三年に亘り佛、英に留學、伊、獨、和を巡歴帰朝した。文展に於て屢々受賞、大正四年印度に遊び翌年帰朝した。同五時文展審査員となり、昭和四年帝國美術院會員、同七年東京美術學校教授となつた。同十二年帝國美術院會員拜命。

104 三宅克己 雨後のノートルダム(水彩)(明治三十五年)

東京 德富蘇峰氏藏

明治七年德島縣に生る。上杉熊松、曾山幸彦、原田直次郎に學んだ。同三十年より三十二年迄欧米留學、その後数次渡欧。同四十年東京府勸業博覽會に於て二等賞、文展に於て数度授賞。帝展に於て数回審査員となつた。光風會々員であり、水彩畫界の先進者として知られてゐる。此の作品は第二回渡欧中のものである。

105 故 三輪大次郎

御物 海邊漁夫網ヲ修補圖額(明治四四年)

106 故 山内愚仙 長 閑(明治四二年)

朝日新聞大阪本社藏

名貞郎、慶應二年江戸に生る。高橋由一、渡辺文三郎等に師事、後年佛蘭西に遊學す。大阪朝日新聞社に勤務。昭和二年歿。本圖は正月用特別刷の原畫である。

107 故 山本芳翠

御物 唐家屯月下歩哨之圖額(明治三九年)

108 自畫像

東京美術學校藏

嘉永三和美濃國に生れた。明治五年京都に出て久保雪江に就て南畫を學んだ。同四年横濱に赴いて五姓田芳柳に師事、同九年に工部美術學校に入り、フォンタネージの指導を受けた。同十年第一回内國勸業博覽會に於て花紋賞を受與された。同十一年巴里万国博覽會に際し渡佛、エコール・デ・ボザールに入學レオン・ジェロームに師事した、同二十年帰朝、同二十一年生巧館畫學校を設立して後進を指導し、又明治美術會の創設に盡力した。二十九年白馬會の創立には其の背後に在つて盡力した。日清、日露の兩役には卒先従軍多くの作品を演じた。三十九年歿。享年五十七。「唐家屯月下歩哨之圖額」は日露戰役従軍の所産であり献上畫である。「自畫像」は瀟佛中の作品

109 故 山本森之助 雲の峰(明治三四年第六回白馬會)

東京美術學校藏

110 同 曲 浦(明治四二年第二回文展參等賞)

文部省藏

明治十年長崎市に生れた。初め大阪に於て山田愚仙に師事し、同二十八年上京明治美術會美術學校に翌二十九年東京美術學校に入學黒田清輝

の黄陶を受け、廿二年卒業その作品を白馬會に出品した。四十年東京勸業博に於て一等賞を受け、又初期文展に数次受賞、同四十三年文展審査員に擧げられた。同四十五年中澤弘光、三宅克巳等と光風會を創立した。大正十二年渡欧、同十三年帰朝して帝展審査員となった。昭和三年歿。

111 山下新太郎 讀書 (明治四二年)

112 同 靴の女 (明治四三年)

明治十四年東京生。同三十七年東京美術學校洋畫選科を卒業、翌三十八年佛蘭西に留學、ラファエル・コラン及びピルモンに師事、同四十一年、四十二年サロンに出品、同四十三年帰朝。初め文展に出品し屢々受賞したが、大正三年石井柏亭有島生馬等と二科會を創立し、昭和七年再度渡欧翌年帰朝した。昭和十年帝國美術院會員、十二年帝國藝術院會員となる。又此の年同志と一水會を創立した、而し共に滞欧作であつて、第四回文展に出品した。

113 山脇信徳 停車場の朝 (明治四二年)

明治十九年高知に生る。同四十三年東京美術學校を卒業。四十二年第三回文展に本圖を出品優賞を授けられた。後院展に出品櫻生賞を得たが現在國畫會々員、文展無鑑査である。

114 矢崎千代二 教 鵠 (明治三年)

明治五年横須賀に生る。初め曾山幸彦に學び、後東京美術學校に入學同三十五年卒業した。第五回内國勸業博覽會において三等賞を受け、名を知られた。外遊數回、文展、帝展に出品、現在文展無鑑査

115 故湯淺一郎 漁夫晚歸 (明治三二年第三回白馬會)

116 同 群衆 東京美術學校藏

明治元年群馬縣に生れた。初め山本芳翠に師事し、次で黒田清輝の黄陶を受けた。三十一年東京美術學校洋畫選科を卒業、白馬會に作品を發

表した。同三十八年歐洲に遊學、四十三年帰朝した。初期文展に出品、大正三年同志と共に二科會を創立その會員となつた。昭和六年歿。

117 和田英作 渡頭の夕暮 (明治二九年卒業制作)

118 同 射 夕 (明治四〇年内國博一等賞) 東京服部玄三氏藏

119 同 原法學博士肖像 (明治四二年第三回文展) 東京原嘉道氏藏

明治七年鹿兒島縣に生る。曾山幸彦、原田直次郎に師事、次で黒田清輝の黄陶を受く。三十年東京美術學校卒業。三十二年渡歐、次で佛蘭西に移り、ラファエル・コランの内に入る。三十六年帰朝、東京美術學校教授となる。四十年文展審査員、大正八年帝國美術院會員となる。昭和七年東京美術學校校長に任せられ、同十二年辞した。又同九年帝室技藝員を拜命した。

120 和田三造 南 風 (明治四〇年第二回文展二等賞) 文部省藏

明治十五年福岡縣生、初め白馬會溜池研究所に、次で東京美術學校西洋畫選科に入學、三十七年卒業。文展初期に屢々受賞、四十二年文部省留學生として渡佛、又印度に滞在、大正四年帰朝。同五年文展寫査員、後帝展審査員を経て、昭和二年帝國美術院會員拜命、現在帝國藝術院會員、東京美術學校教授。

121 故渡邊與平 金さんと赤 (明治四〇年第一回文展) 兵庫龜高文子氏藏

明治二十二年福岡に生れた。同三十九年京都市立美術工藝學校を卒業して後上京、太平洋研究所に入つた。雑誌のコマ畫を得意としその名を知られた。文展第一回に「金さんと赤」文展第五回に「帯」を出品した。同四十五年六月夭折した。

122 渡部審也 猿 曳 (明治三二年) 東京三井洋畫コレクション藏

明治八年岐阜縣大垣に生れた。明治美術會美術學校に於て松岡謙に師事し、更に淺井忠の指導を受けた。太平洋畫會創立委員であり又文部省囑託として教科書の挿繪を描いてゐる。

123 故 渡邊文三郎

風景

四八

帝室博物館藏

嘉永六年岡山縣に生れた。明治八年より同三十五年に亘り東京開成學校、大學豫備門、第一高等學校に教鞭をとつた。明治十年第一回内國勸業博覽會に出品褒賞を受けた、又明治美術會の創立にかはりその會員であつた。

124 故 ワーグマン 自畫像(明治二〇年代)

東京美術學校藏

天保六年(一八三五)英京倫敦に生れ、安政四年イラストレーター・ロンドンニュースの挿繪特派通信員として東洋に來り、同六年横浜開港と同時に同地に永住した。彼の畫風は正統なるものではないが、幕末、明治初期の作家殊に高橋由一、五姓田義松、小林清親の如きは、彼に奥技を學んで得るところがあつた。明治二十一年一度歸國したが再度來朝、同二十四年横浜において歿した。

彫刻

(五十音順に各項括弧内は制作の年を示す)

1 朝倉文夫 猫

(明治四二年文展三等賞)

東京美術學校藏

2 同 墓

守(明治四三年文展)

東京作者藏

明治十六年大分縣に生る。同四十年東京美術學校彫刻科を卒業、在學中仁禮子爵銅像懸賞に一等を獲、又四十一年文展に「關」を出品して二等賞を得て世に知られた。もと帝國美術院會員、現に藝術院會員にして朝倉彫塑塾を主宰す。

3 故 石川光明 南天

東京石川確治氏藏

4 同 群羊

(明治四〇年)

大東亞會館藏

嘉永五年江戸に生る。家は代々宮彫大工を業とした。十二歳の時根付師菊川正光に牙彫を學び、明治牙彫界に君臨したが又木彫にも長じ、高村光雲と譽を並べて東京美術學校の教授となり、又帝室技藝員を拜命し、現代木彫の興隆に貢献し、大正二年六十二歳を以て歿した。木彫に於ては特に浮彫に妙技し、この群羊圖の如きも東京博覽會に出品して一等賞を受けたものである。

5 故 萩原守衛 宮内氏像

東京宮内家藏

6 同 女

(明治四三年文展三等賞)

文部省藏

明治十二年長野縣に生る。初め洋畫を志し廿三歳の時渡米し更に佛國に移つたが、ロダンの作に感激して彫刻に轉じた。四十一年歸朝するやロダン風の作風によつて我が國彫刻界に新鮮の氣を齎し、大いにその將來を囑望されたが、四十三年三十二歳を以て歿した。

7 故 大熊氏廣 大久保利通像

帝室博物館藏

安政三年武藏國に生る。工部大學美術學校に於て伊人ラグーザに彫刻を學び、又カリヤジに大理石彫を習ふ。後伊太利に赴き羅馬美術學校に

入つて彫技を磨き、帰朝後は銅像製作者として活躍した。靖國神社大村益次郎像の如きは彼の作品とし世に著名である。昭和九年歿。享年七十八歳。

8 故 北村 四海 春 秋

東京北村正信氏藏

明治四年長野市に生る。彫技は宮彫を家業としてゐたので幼少から親しんだが、又鳥村後明、石川光明、小倉惣次郎に師事し、更に明治三十三年には佛國に遊學してチウオルヂウバローに就いた。大理石を用ひて典雅な彫技を示すのを得意とした。昭和二年歿、享年五十七歳。

9 故 瀧澤 天友 呵呼婆羅

東京平柳田中氏藏

明治四年長野縣飯山に生る。初め彫技を家兄に學び後中谷省古に師事し、東京彫工會に受賞すること數次、歿年不詳。

10 故 長 沼 守 敬 老夫の像

東京美術學校藏

安政四年陸中國に生る。明治十八年ウエニス王國美術學校彫刻科を卒へ、同二十年帰朝するや東京美術學校に教授をとり、我が國洋風彫刻の發達に力を盡した。肖像彫刻を得意としたが、この老夫像の如きは技巧も円熟してゐて、彼の代表作である。

11 故 竹内 久一 技藝天像(明治二十六年)

東京美術學校藏

12 同 豐太閤像

東京美術學校藏

安政四年江戸に生る。初め牙彫を堀内龍仙、川本洲樂等に學んだが、木彫の大作にも長じ、東京美術學校に於ても又教授し、光雲、光明等と共に彫刻界に活躍するところ大であつた。明治三十九年には帝室技藝員に擧げられた。技藝天像はシカゴ萬國博覽會に出品したもので、古代彫刻に対する深い研究の成果である。大正五年歿、享年六十。

13 故 高村 光雲 聖德太子像

東京美術學校藏

14 同 猫

猫

東京高村豐周氏藏

嘉永五年江戸に生る。十二歳の時から佛師高村東雲の門に學び、牙彫全盛の世によく木彫を固守した。東京美術學校が開設されるや聘せられて教授となり、同十三年には帝室技藝員を命ぜられた。昭和九年を以つて歿したが、その間教へるところの門弟多士活々にして、現代に於ける本彫の隆昌は彼に負ふところ頗る大である。練熟した彫技と寫生を加味した表現とは彼の作品に於ける特色である。

15 故 新海 竹太郎 ゆあみ

文部省藏

16 同 斥 侯

文部省藏

明治元年山形縣に生る。初め後藤貞行や小倉惣次郎等に彫刻を學んだが、後獨逸に赴きヘルテルに師事して更に技を磨いた。帰朝後は我が國洋風彫刻界の先進としてその殆違に盡したが、又東洋の傳統的な味ひを持つた木彫も多く刻んだ。大正六年帝室技藝員を命ぜられ、昭和二年六才を以て歿した。

17 故 後 藤 貞行 馬

帝室博物館藏

嘉永三年和歌山に生る。馬に対する造詣深く、遂に彫技を高村光雲に學んで、馬の彫刻家として著る。宮城前橋公銅像の馬も亦この作者の手になるものである。明治三十六年五十四歳を以て歿す。

18 故 白井 雨山 箭調べ(明治四十一年文展)

文部省藏

元治元年愛媛縣に生る。初め繪を志して望月玉泉の門に學んだが、東京美術學校が開設されるや入つて彫刻に轉じた。卒業後暫らく地方の教職に就いたが、三十四年には彫刻最初の留學生として歐洲に派遣され、帰朝後母校に教授となり彫技を授けた。昭和二年歿、年六十五歳。

19 故 島村 俊明 源頼義石清水詣圖

東京吉田芳明氏藏

安政二年江戸に生る。家は代々宮彫大工業をしてゐたので、幼時から彫技に長じてゐたが、象牙彫刻の勃興するや又牙彫にも進出して漆技を

示した。明治二十九年歿、享年四十二歳。

20 故 建 島 大 夢 ながれ (明治四十四年文展)

文 部 省 蔵

明治十五年和歌山縣に生る。同四十四年東京美術學校を卒業。もと帝國美術院會員、現に帝國藝術院會員である。

21 平 櫛 田 中 維 摩 (明治四十年代)

神奈川 間 島 愛 氏 蔵

明治五年岡山縣に生る。彫刻を中谷省太、高村光雲に學び、日本美術院の再興されるや同人として参加、爾來常に新しい工夫の迹を示して斯界に注目されてゐる。もと帝國美術院會員であり現に帝國藝術院會員である。

22 藤 井 浩 祐 髮 洗 ひ

東 京 満 谷 宇 女 氏 蔵

明治十五年東京に生る。同四十年東京美術學校彫刻科を卒業。一時美術院の同人となる。現在帝國美術院會員。

23 水 谷 鐵 也 小 刀 磨 き (明治四十二年)

東 京 作 者 蔵

明治九年長崎島原に生る。森川杜園、和田貫水に師事し又明治三十五年東京美術學校を卒業し母校に助教となる。

24 故 山 田 鬼 齋 平 治 物 語 圖 額 (明治二十六年)

帝 室 博 物 館 蔵

元治元年福井縣に生る。家は代々佛師を業としたので、彼も幼少の頃から彫技を父に學び、郷里の社寺の彫刻に従事してゐたが、東京に出てその手腕を認められ、東京美術學校が開かれるや雇を命ぜられ、後に教授となつた。同三十四年歿、年三十八。

25 山 崎 朝 雲 たてをがみ

文 部 省 蔵

26 同 大 葉 子

文 部 省 蔵

明治元年福岡市に生る。高村光雲門下の高足でその彫技は光雲自ら推賞したところであり、明治中期以降堅実な作風を以て日本木彫界に車きをなす。現に帝室技藝員、帝國藝術院會員。

27 故 渡 邊 長 男 蘆 葉 達 磨

東 京 作 者 蔵

明治七年大分縣に生る。初め山田鬼齋に彫刻を學んだが、同三十二年東京美術學校彫刻科を卒業し、彫塑界の新人として活躍、多くの銅像を製作した。有名な廣瀬中佐の銅像また彼の作である。

28 故 米 原 雲 海 仙 丹 (第四回文展)

文 部 省 蔵

29 同 月

伯 爵 牧 野 伸 顯 氏 蔵

明治二年島根縣に生る。彫刻を高村光雲に學び、朝雲と共に夙より同門中の逸足として知られた。國風彫刻の興隆を志し、雅致擲すべき作品を多く示したが、大正十四年五八歳で歿した。

30 故 ラ グ ー ザ お 玉 像

東 京 美 術 學 校 蔵

31 同 團 十 郎 像

東 京 美 術 學 校 蔵

一八四一年伊太利に生る。明治九年工部大學美術學校彫刻學科教師として來朝し、洋風彫刻を教授し、同十五年歸國するに至つた。しかし彼の畫作によつて大熊氏廣、藤田文藏、菊地鑿太郎、佐野昭等が出たので、彼が我が國彫刻界に與へた影響には尠からぬものがあつた。お玉像は後のラグーザ夫人であり、團十郎像は九代目團十郎の助六姿であり、よく寫實的な作風を示してゐる。

工 藝 (五十首順)

五四

1 故 淺井寛哉 ヴィーナスの置物(貝彫)

水産講習所蔵

嘉永五年江戸に生る。彫刻を櫻井法一に繪畫を松本楓洲に學び、介甲牙角木竹玉石の彫刻に長じ、正倉院御物の修理を仰付けられる。明治三十八年日本介甲彫刻技師として佛國に聘せられたのを機會に歐洲を巡遊した。又後年水産講習所に於ても斯技を教授した。

2 故 旭玉山

御物 牙彫官女置物

天保十二年江戸に生る。二十四歳にして僧より還俗、牙彫の名工たり。明治十八年石川光明等と彫刻競技會を起す。大正十三年歿、年八十三。官女は稀に見る牙彫の大作で、彼の傑作であるばかりでなく、日本牙彫最高の技術を示すものである。

3 故 石川光明 牧童

東京美術學校蔵

嘉永五年江戸に生る。繪を狩野素川に木彫を父に又牙彫を菊川正光に學び、明治中期牙彫全盛の時代はその総帥たるの觀があつたが、又木彫にも長じ光雲と共に後進を指導する功績大であつた。東京美術學校教授、帝室技藝員、大正二年歿、年六十二。

4 故 池田泰眞 江之島時繪額

帝室博物館蔵

文政八年江戸に生れ、柴田是眞の門に學ぶ。帝室技藝員を命ぜらる。明治三十六年歿、年七十九。

5 故 井上良齋 紫陽花香爐

帝室博物館蔵

文政十一年尾張瀬戸に生る。後江戸に出て、開窯し、瀬戸原料により専ら美術品及び輸出品を造り、明治中期東京陶磁器の作家として著る。

6 故 伊東陶山 錦彩耳付一輪生

男爵住友吉左衛門氏蔵

弘化三年山城栗田に生る。陶技を重屋旭亭、三代道八その他に學び慶應三年白川に開業し、又山城朝日燒の復興に盡し、後本國繪附の技法を完成す。大正六年帝室技藝員に任せられ、同九年七十六才を以て歿す。

7 故 海野勝珉

御物 金屬製蘭陵王置物

御物 銀製丹鳳朝陽圖花瓶

弘化元年水戸に生る。彫金を海野美盛及び萩谷勝平に學び、又加納夏雄にも師事して鑲嵌を極めた。後東京美術學校教授となり又帝室技藝員を仰付けらる。大正四年歿、年七十二。

9 故 永樂和全 織物模様四方皿(五枚)

帝室博物館蔵

京都の陶家にして和全は永樂家十二代を継ぎ名聲を得た。明治二十九年歿。

10 故 小川松民 芦手模様香盆

東京美術學校蔵

弘化四年江戸に生る。漆技中山胡民に受く、古作の模造に巧みなり。職を東京美術學校に奉せしも、明治五年歿す、年四十五。

五五

11 故岡部覺彌 色金製漆林圖額

明治六年福岡市に生る。洋畫を吉田嘉三郎に、月本畫を川端玉章に、彫金を加納夏雄、海野勝現に、彫塑をシュロツトに學ぶ。同二十八年東京美術學校を卒業、一時米國博物館に勤め又歐洲を遊歴して得るところがあった。

12 故岡崎雪聲 辯才天像額(明治二十六年) 帝室博物館藏

安政元年山城國に生る。鑲金の技を父及び鈴木政吉に學ぶ。東京美術學校に入り後同校教授となる。大正十年歿、年六十八。

13 故大國柏齊 線口尻張釜 東京正木千冬氏藏

安政三年大阪に生る。父の業を繼いで専ら鉄瓶の製作に従事してゐたが、明治四十年頃から東京の諸展覽會に出品して次第に名譽を博するに至つた。

14 故大島如雲 圓額濡獅子圖(明治二十三年) 東京美術學校藏

安政五年江戸に生る。鑲金の技を父に受け東京美術學校が開設されるや、囑託されて蠟型、鑄込、鑄造等の技術を教へた。

15 故川之邊一朝 石山螢谷詩繪文台 帝室博物館藏

天保元年江戸に生る。繪を武井藤助に學ぶ。東京美術學校教授となりまた帝室技藝員たり。明治四十三年歿、年八十一。

16 故加納夏雄 月と雁圖(明治二十六年) 帝室博物館藏

17 同 片切彫午板 東京美術學校藏

文政十一年京都に生れ、後江戸に移る。彫金を池田孝壽に學び、畫を中島來章に受く。近世彫金界に於ける巨匠である。東京美術學校教授と

なり、又帝室技藝員を命ぜらる。明治三十一年歿、年七十一。

18 故加納鐵哉 煎茶皆具 大阪林成一氏藏

19 故川島甚兵衛 百花文加良錦 京都川島甚兵衛藏

20 同 名所模様唐織能衣裝 帝室博物館藏

明治三十一年帝室技藝員を命ぜらる。代々京都の機業家で、西陣織の發展に努力し海外にその聲價を弘めた。明治四十三年歿、年五十九。

21 故香川勝廣 花瓶 帝室博物館藏

故嘉永六年江戸に生る。彫金は初め野村勝守につき後加納夏雄に師事し、又繪を柴田是眞に學ぶ。一時東京美術學校教授となる。帝室技藝員。大正六年歿、六十五。

22 故加納夏雄

御物 銀製千羽鶴彫花瓶(明治三十三年)

23 故木内喜八 木象嵌波千鳥水車大火鉢 男爵大倉喜七郎氏藏

文政十年江戸に生る。生來多藝にして琴師、船大工、鉄砲師、鞍師等を闊歴したが特に木象嵌は特技とするところであつた。明治三十五年歿、年七十六。

24 故 清風 與平 花 瓶

嘉永四年播磨國に生る。陶磁を養父二世與平に、繪を田能村直入に學ぶ。古青磁の模製に長ず。帝室技藝員、大正三年歿、年六十四。帝室博物館藏

25 故 白山 松哉 蘭奢待香桶

嘉永六年江戸に生る。時繪を小林好山に學び、東京美術學校教授となる。又帝室技藝員を命ぜらる。大正十二年歿、年七十一。東京正木千冬氏藏

26 故 白井 半七 絃手茶入

淺草今戸にあつた今戸焼の六世で、世業を襲いで土風爐を作つた他、又樂爐を能くして名譽を得た。東京津田信夫氏藏

27 故 柴田 是眞 蓮池と鴨圖額

文化四年江戸に生る。繪畫のみならず時繪に巧みにして、帝室技藝員に列せらる。明治二十四年歿、年八十五。帝室博物館藏

28 故 清水 六兵衛(三代) 南蠻水指(明治十年)

三代六兵衛は文政五年に生れ、京都清水焼を代表する五條坂の陶家清水家を嗣ぐ。製陶を父に畫を山田海陽に學び、陶藝に文明開化の新氣運を移入した。明治十六年歿、享年六十二。京都清水六兵衛氏藏

29 故 清水 六兵衛(四代) 色繪秋草大皿(明治四十年)

嘉永元年に生れ、明治十六年父の後を継ぐ。作風父の風を倣ふのみならず唐繪寫やその他多方面に及ぶ。殊に蟹の繪付では名を得た。大正九年歿、享年七十三。京都清水六兵衛氏藏

30 故 諏訪 蘇山 青瓷紅魚花入

嘉永四年加賀に生る。陶畫を彩雲樓旭山に學び、四十年京都五條坂に開業す。のち帝室技藝員を命ぜらる。大正十一年歿、年七十二。東京正木千冬氏藏

31 故 鈴木 長吉 鷺置物 帝室博物館藏

嘉永元年武藏國に生る。岡野東龍齋に師事し、蠟型鑄技を學ぶ。鷹は時に得意とするところ、海外にまで名譽を得たものである。帝室技藝員を命ぜらる。大正八年歿、年七十二。

32 故 正阿彌 勝義 雪中南天樹鴨圖象嵌龍銀額 帝室博物館藏

33 故 玉楮 象谷 菓子器 帝室博物館藏

34 故 高橋 道八(四代) 琉璃銀欄手水瓶 帝室博物館藏

弘化二年京都に生る。明治七年父業を継ぎ、家法に改良を加へること勦からず、殊に青華磁や彫刻鳥磁は長所とするところであつた。明治三十年歿、享年五十三。

35 故 秦 藏六(初代) 銅 鼎(明治九年) 京都秦 藏六氏藏

36 故 伊達 彌助 蝶模様壁掛 京都飯田新七氏藏

37 故 竹本 隼太 小倉山花瓶 東京森 健介氏藏

38 故 沈 壽 官 色繪紗綾文雪輪花實花瓶 帝室博物館藏

39 故 塚田 秀鏡 清風閑話圖囃銀卷管入 東京松下可志郎氏藏

天保六年に生る。文祿の役に來朝帰化せる朝鮮陶工の裔にして、維新後薩摩窯を再興す。明治三十九年歿、年七十二。
嘉永元年江戸に生る。勝見宗齋、加納夏雄に師事す。帝室技藝員當り。大正七年歿、年七十一。

陳列目録

會期七一第陳列番

高橋 由一 (文政十二年一明治二十七年) 明治十年頃
 念倉見現像
 本牧海舟
 素庵、寫生帖
 明治十三年頃
 山本 芳 翠 (嘉永三年一明治三十九年) 明治十五年
 西洋婦人像
 藤家比阿下末者團 明治三十九年
 川村 清 雄 (嘉永五年一昭和九年) 明治十五年
 藤干 園
 少女 象
 流 濯 婦
 五住 田 島 松 (享和二年一明治四年) 明治十六年
 操 人 形
 讀書婦人
 此隨御巡幸寫生
 素庵、寫生帖
 交 井 茂 (安政三年一明治四十年) 明治二十一年
 春 茂
 收 茂
 風 葉
 シレー 秋 葉
 流 濯 婦
 繪 心 七 郎
 西洋婦人像
 讀書婦人像
 樹下婦人像
 老婦人像
 中澤岩太 象
 春 (水彩)
 シレー 七 橋 (水彩)
 冬のシレー 林 (水彩)
 山 羊 (水彩)
 素庵、寫生帖
 小山 正 太郎 (安政四年一明治五年) 明治十五年
 素庵
 校 因 幸 (文久二年一昭和十九年) 明治十五年
 凱 美 門
 伊太利兵士
 素庵、寫生帖
 原 田 直 次 郎 (文久三年一明治三十二年) 明治十九年
 鐵屋のふさち
 風 景
 長 原 孝 太 郎 (元治元年一昭和五年) 大正二年
 交 野 田 清 輝 (慶應二年一明治十三年) 明治十五年
 シンガポールの井くる女
 婦人像 (母像)
 繪 草
 夫文世伯像
 夏 大 正
 秋 林
 明治二十八年頃

木暮

新 鐵 砲 百 合
 夏 花 園
 繪 心 七 郎
 雪 景
 大村繪曾 象
 素庵、寫生帖
 久米 桂 一 郎 (慶應二年一昭和九年) 明治二十三年
 裸 婦
 寒 林 枯 葉
 巴 里 郊 外
 中 村 不 折 (慶應二年一昭和十八年) 明治十五年
 御行松夜景
 雪 景
 大 正 五 年
 藤 島 武 二 (慶應三年一昭和十八年) 明治三十五年
 天 平 の 曲 影
 葉 子
 コ ン ト
 夏 景
 シンラ、ピステの池
 白 雲
 藤 島 武 二
 朝 霧
 東 海 旭 光
 鏡 の 前 (メステル)
 素庵
 因 田 三 郎 助 (明治二年一昭和十四年) 明治三十二年
 セー又河上流景
 葛城の少女
 伊太利の少女 (メステル)
 其夫人像
 大隈伯夫人像
 くもり
 日 本 桃 の 林
 よやめの衣
 絵 子 ぶ 根 草
 素庵、寫生帖
 中 川 八 郎 (明治十年一明治十一年) 明治四十一年
 北 國 の 冬
 野 崎 翁 像
 九 日 末
 ホ プ ラ
 山 本 康 之 助 (明治十年一昭和三年) 明治四十一年頃

森 田 恒 友 (明治十三年一昭和八年) 昭和五年
 尾 瀬 沼
 素庵、寫生帖
 青 大 繁 (明治十五年一明治四十四年) 明治三十九年
 よもつひらさか
 海 の 幸
 天 平 時 代
 天 平 時 代
 かわつみのしるしの宮
 明 治 十 一 年
 山 本 翠 (明治十五年一昭和二十年) 明治三十八年
 裸 婦 像
 百 重 像
 山 本 翠
 萬 藏 五 郎 (明治十八年一昭和三年) 昭和十三年
 青 山 熊 治 (明治十九年一昭和七年) 明治三十三年
 牛
 中 村 翠 (明治二十一年一明治三十三年) 明治四十三年
 海 邊 の 水
 少 女 像
 百 重 像
 エロシエンゴの象
 素庵
 小 出 階 重 (明治二十一年一昭和六年) 大正九年
 少 女 小 梅 の 象
 支那寫生の裸女
 素庵、寫生帖
 中 多 徳 郎 (明治二十二年一昭和九年) 昭和五年
 又 多 徳 郎
 野 崎 翁 像 (明治二十三年一昭和二十一年) 昭和五年
 明 治 十 一 年
 素庵、寫生帖
 岸 田 劉 生 (明治二十四年一昭和四年) 大正五年
 自 居 像
 大 氏 の 象
 童 女 像
 冬 瓜 圖
 大 連 星 々 漸 風 景
 素庵
 佐 伯 祐 三 (明治二十六年一昭和三年) 大正十二年
 オラセルアイトノール附註
 カフエのテラス
 寺
 自 居 像
 一 軒 の 家
 女 の 象
 リユウサンボール附註
 前 田 寛 治 (明治二十九年一昭和五年) 昭和五年



40 故並河靖之花瓶

弘化二年京都に生る。明治初年來聘されし獨逸人ワグネルの傳へたる七寶技法を更に改良し、金銀線を用ひたる精巧緻密なる七寶を製作す。帝室技藝員に任ぜらる。 帝室博物館藏

41 故平田宗幸銅製香爐

嘉永四年に生る。幕府打物御用を務めし平田三之助に學び、帝室技藝員となる。大正九年歿、年七十。 東京美術學校藏

42 故堀田瑞松紫檀樓閣山水額

帝室博物館藏

43 故三浦乾也雲松茶碗

東京石井柏亭氏藏

文政四年江戸に生る。陶法を伯父吉八に學び、又乾山燒の法を西村鏡庵に受く。更に破笠細工に倣ひ陶器漆を器中に嵌して巧技を示した。明治二十二年歿、年六十九。

44 故三浦竹泉(初代) 礬社龍紋扇面形鉢

神奈川 佐羽 總太郎 氏藏

京都に生る。三代高橋道八の門に學び出藍の譽あり、明治十六年より獨立す。最も青華磁器に長じ又明清磁器の模造にも巧みであつた。又明治三十六年には「陶說」を邦訳して斯界に益した。大正四年歿、年六十。

45 故宮川香山 青磁浮牡丹花瓶

帝室博物館藏

天保十三年京都に生る。窯技を父に學び眞葛燒を業とす。美術陶器を作りて海外に出せり。帝室技藝員。大正五年歿、年七十五。

46 故森川杜園 猩々

外務省藏

明治美術名作大展示會目錄

定價 三十錢

昭和十八年二月七日印刷
昭和十八年二月十日發行

東京市麴町區有樂町二丁目三番地

朝日新聞東京本社

編輯兼 發行人 木下 宗一

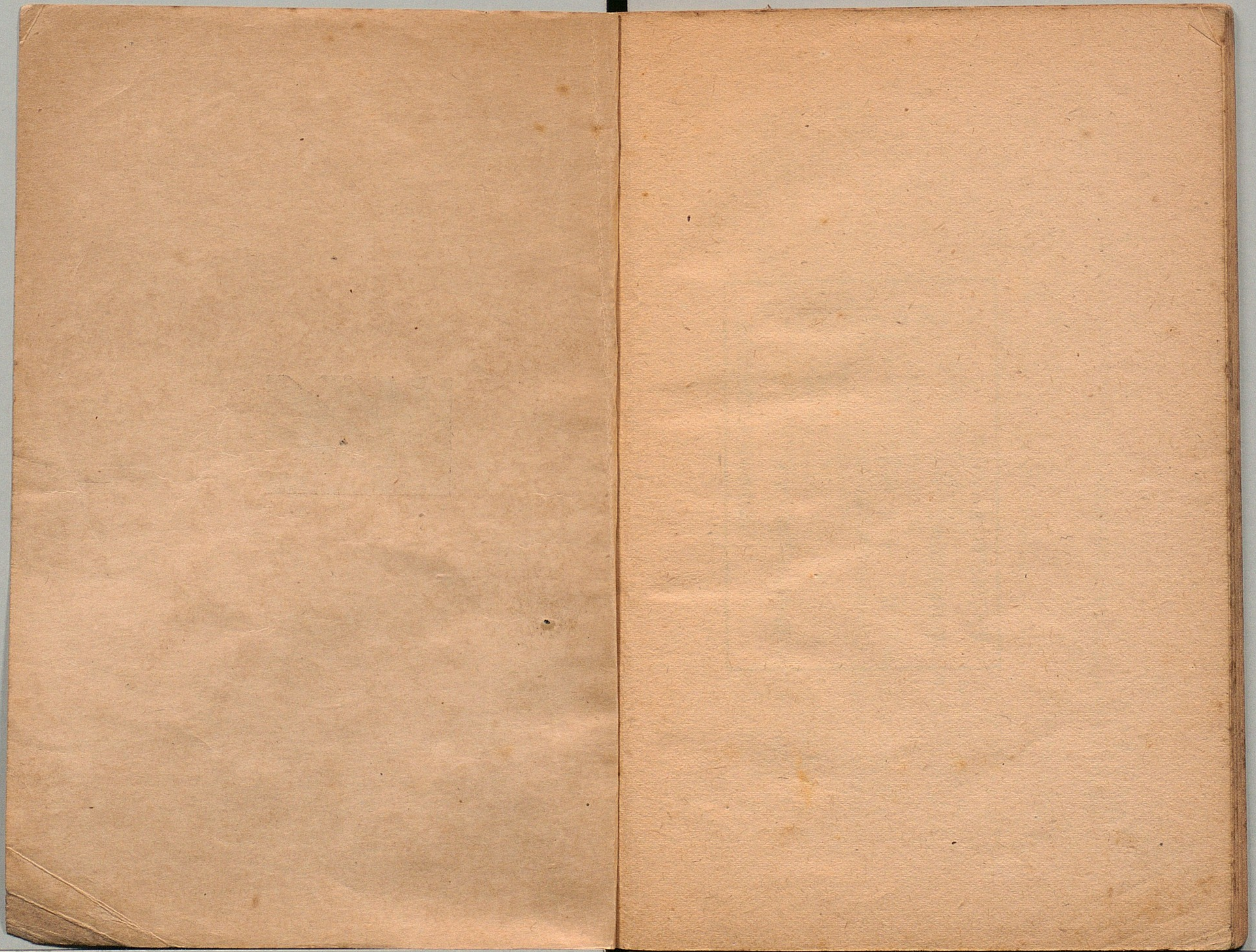
東京市麴町區有樂町二丁目三番地

印刷所 朝日新聞東京本社

東京市麴町區有樂町二丁目三番地

發行所 朝日新聞東京本社

不許複製





月
43

東京文化財研究所

2501031694